

リタル實根ノ數ヲ定ムルコトヲ得レドモ。實根ノ總數ハ定ムルコト能ハザルモノナリ。

例 次ノ方程式ノ根ヲ吟味セヨ。

$$x^4 - 5x^3 + 9x^2 - 7x + 2 = 0$$

[解] 先ヅ。すつるむ級數ヲ作ルニ

$$f(x) = x^4 - 5x^3 + 9x^2 - 7x + 2$$

$$f_1(x) = 4x^3 - 15x^2 + 18x - 7$$

$$\begin{array}{r}
 4x^3 - 15x^2 + 18x - 7 \quad \left(\begin{array}{l} x^4 - 5x^3 + 9x^2 - 7x + 2 \\ 4x^4 - 20x^3 + 36x^2 - 28x + 8 \\ \hline 4x^4 - 15x^3 + 18x^2 - 7x \end{array} \right) \begin{array}{l} x \\ -5 \end{array} \\
 \hline
 (-5x^3 + 18x^2 - 21x + 8) \\
 -20x^3 + 72x^2 - 84x + 32 \\
 -20x^3 + 75x^2 - 90x + 35 \\
 \hline
 -3x^2 + 6x - 3
 \end{array}$$

$$\therefore f_2(x) = 3x^2 - 6x + 3 = 3(x^2 - 2x + 1) = 3(x-1)^2$$

$$\begin{array}{r}
 x^2 - 2x + 1 \quad \left(\begin{array}{l} 4x^3 - 15x^2 + 18x - 7 \\ 4x^3 - 8x^2 + 4x \end{array} \right) \begin{array}{l} 4x - 7 \\ -7 \end{array} \\
 \hline
 -7x^2 + 14x - 7 \\
 -7x^2 + 14x - 7 \\
 \hline
 0
 \end{array}$$

ニシテ。f(x) ト f₁(x) トノ間 = (x-1)² ナル最大公約數アリ。故ニ原方程式ハ x=1 ナル三重根ヲ有ス。又すつるむ級數ノ符號變化ヲ計算スレバ。

	f	f ₁	f ₂	符號變化	減少
-∞	+	-	+	2	0
0	+	-	+	2	
∞	+	+	+	0	

トナリ。此方程式ハ負根ヲ有スルコトナクニツノ正ノ異根ヲ有スベシ。從ツテ殘ル正根ヲ求メシニ。

	f	f ₁	f ₂
0	+	-	+
1	0	0	0
2	0	+	+

ナルヲ以ツテ。x=2 ガ殘リ根ナルコトヲ知ル。

[注意] (1) すつるむ級數 f₂(x), f₃(x), ヲ作ル場合ニ。f_r(x) = 至ツテ常ニ一定ノ符號ヲ有スルコト即チ f_r(x)=0 ノ根ガ總テ虛根ナルコトアリ。此ノ場合ハ是レヨリ以下ノ函數 f_{r+1}(x), f_{r+2}(x), ニ起ル符號變化ノ數ハ。x ノ値ニヨリテ變ズルコトナシ。(若シ符號變化ノ數ニ増減アラバ。すつるむノ定理ニヨリ f_r(x)=0 = 實根アルコト、ナル) 從ツテすつるむ級數ノ計算ハ f_r(x) = 止メ其以下ハ計算スルニ及バズ。例ヘバ。f₂(x) ガ二次式

$ax^2+bx+c = \text{シテ}$ 且ツ $b^2-4ac < 0$ ナルトキハ。 $f_r(x)$ 即チ ax^2+bx+c ハ常ニ a ト同號ヲ有スベシ。 故ニ $f_{r+1}(x)$ 及ビ $f_{r+2}(x)$ ハ之レヲ計算スルニ及バザルナリ。

例 次ノ方程式ノ根ヲ吟味セヨ。

$$2x^4 - 13x^2 + 10x - 19 = 0$$

[解] すつるむ級數ヲ作ルニ。

$$f(x) = 2x^4 - 13x^2 + 10x - 19$$

$$f_1(x) = 8x^3 - 26x + 10 = 2(4x^3 - 13x + 5)$$

$$f_2(x) = 13x^2 - 15x + 38$$

然ルニ。

$$(-15)^2 - 4 \times 13 \times 38 < 0$$

ナルヲ以ツテ。 $f_2(x)$ ハ常ニ一定ノ符號(此場合ハ+)ヲ有ス。 故ニ $f_3(x), f_4(x)$ ハ求ムルニ及バザルナリ。 又符號變化ヲ見レバ

	f	f_1	f_2	符號變化	減少
$-\infty$	+	-	+	2	1
0	-	+	+	1	
$+\infty$	+	+	+	0	

ニシテ。此方程式ハ二個ノ實根(一個ハ正根、一個ハ負根)ヲ有スルコトヲ知ル。

[注意] (2) n 次ノ有理整方程式 $f(x)=0$ ノ根ガ總テ實數ナル爲メノ條件ハ。すつるむ級數ニ於テ $x=-\infty$ ナルトキノ符號變化ノ數ト $x=+\infty$ ナルトキノ符號變化ノ數トノ差ガ。 n ニ等シキコトナリ。而シテ之レガ爲メニハすつるむ級數ニ於ケル函數ハ $(n+1)$ 個 {勿論 $(n+1)$ 個ヨリ多クアルコトナシ} ナルガ故ニ。 $x=-\infty$ ナルトキニ符號變化ノミ (+ - + - ... 或ハ - + - + ...) ニシテ。又 $x=+\infty$ ナルトキニ符號連續ノミ (++++..... 或ハ - - -.....) ナラザルベカラズ。

第 十 二 章

數 方 程 式 ノ 解 法

54. 有理根 = 關スル定理。數方程式ノ根ニ有理數(整數及ビ分數)ナルモノアリ。又無理數ナルモノアリ。前者ハ之レヲ精密ニ求ムルコトヲ得レドモ。後者ニ至ツテハ必要ノ度ニ應ジテ其略近値ヲ求ムルニ止マル。本章ニ於テハ主トシテ後者ニ關スル略近値ヲ求ムル方法ヲ講究セントスルモノナレドモ。先ヅ前者ニ關スル二三ノ事項ヨリ始メントス。

[定理] 有理整方程式

$$x^n + p_1x^{n-1} + p_2x^{n-2} + \dots + p_{n-1}x + p_n = 0$$

ノ第一係數ガ1ニシテ。其他ノ係數 $p_1, p_2, p_3, \dots, p_n$ ガ總テ整數ナルトキハ。此方程式ハ整數ニアラザル有理根ヲ有スルコト能ハズ。

(證) 假リニ。此方程式ニ分數根 $\frac{a}{b}$ (既約分數)

アリトスレバ。 $x = \frac{a}{b}$ ハ方程式ニ適合スベク

$$\left(\frac{a}{b}\right)^n + p_1\left(\frac{a}{b}\right)^{n-1} + p_2\left(\frac{a}{b}\right)^{n-2} + \dots + p_{n-1}\left(\frac{a}{b}\right) + p_n = 0$$

ナルベシ。之レニ b^{n-1} ヲ乘ズレバ。

$$\frac{a^n}{b} + p_1a^{n-1} + p_2a^{n-2}b + p_3a^{n-3}b^2 + \dots + p_{n-1}ab^{n-2} + p_nb^{n-1} = 0$$

$$\frac{a^n}{b} = -(p_1a^{n-1} + p_2a^{n-2}b + \dots + p_{n-1}ab^{n-2} + p_nb^{n-1})$$

此關係ヲ見ルニ。左邊ハ分數ニシテ右邊ハ整數ナリ。分數ガ整數ニ等シト云フ不合理ニ至ルベシ。故ニ原方程式ハ整數ニアラザル有理根ヲ有スルコト能ハズ。

此定理ヨリ考フルニ。總テ係數ガ有理數ナル數方程式 $f(x) = 0$ ハ。方程式ノ變換(第29條)ニヨリ。第一係數ガ1ニシテ其他ノ總テノ係數ガ整數ナル方程式ニ化シ得ルガ故ニ。 $f(x) = 0$ ノ有理根ヲ求ムルコトハ。整數根ヲ求ムルコトニ歸シ得ラルベシ。

55. 整數根ヲ求ムルにうとんノ除數法。

係數 $p_0, p_1, p_2, \dots, p_n$ ガ總テ整數ナル方程式

$$p_0x^n + p_1x^{n-1} + p_2x^{n-2} + \dots + p_{n-1}x + p_n = 0$$

ニ 整數根 h アツトスレバ。方程式ノ左邊ハ $x-h$ ナル因數ヲ有スベク。從ツテ

$$\begin{aligned}
 & p_0x^n + p_1x^{n-1} + p_2x^{n-2} + \dots + p_{n-1}x + p_n \\
 &= (x-h)(q_0x^{n-1} + q_1x^{n-2} + q_2x^{n-3} + \dots + q_{n-2}x + q_{n-1}) \\
 &= q_0x^n + (q_1 - hq_0)x^{n-1} + (q_2 - hq_1)x^{n-2} + (q_3 - hq_2)x^{n-3} \\
 & \quad + \dots + (q_{n-2} - hq_{n-3})x^2 + (q_{n-1} + hq_{n-2})x - hq_{n-1}
 \end{aligned}$$

兩邊ノ相當器ノ係數ヲ比較シテ次ノ諸關係ヲ得ベシ。

$$\left. \begin{aligned}
 p_0 &= q_0 \\
 p_1 &= q_1 - hq_0 \\
 p_2 &= q_2 - hq_1 \\
 \dots & \\
 p_{n-2} &= q_{n-2} - hq_{n-3} \\
 p_{n-1} &= q_{n-1} - hq_{n-2} \\
 p_n &= -hq_{n-1}
 \end{aligned} \right\} \text{即チ} \left. \begin{aligned}
 q_0 &= p_0 \\
 q_1 &= p_1 + hq_0 \\
 q_2 &= p_2 + hq_1 \\
 \dots & \\
 q_{n-2} &= p_{n-2} + hq_{n-3} \\
 q_{n-1} &= p_{n-1} + hq_{n-2} \\
 -q_{n-1} &= \frac{p_n}{h}
 \end{aligned} \right\}$$

先ツ。此等ノ關係ニ於ケル $p_0, p_1, p_2, \dots, p_n$ 及 h ガ整數ナルヲ以ツテ。 $q_0, q_1, q_2, \dots, q_n$ ハ整數ナルコトヲ知リ得ベク。且ツ $p_n = -hq_{n-1}$ ヨリ h ハ p_n ノ因數ナルコトヲ知リ得ベシ。

次ニ。 $p_{n-1} - q_{n-1} = -hq_{n-2} = q_{n-1} = -\frac{p_n}{h}$ ヲ置ケバ。

$$p_{n-1} + \frac{p_n}{h} = -hq_{n-2}$$

$$\therefore -q_{n-2} = \frac{p_{n-1} + \frac{p_n}{h}}{h}$$

同様ニ。

$$p_{n-2} - q_{n-2} = p_{n-2} + \frac{p_{n-1} + \frac{p_n}{h}}{h} = -hq_{n-3}$$

$$\therefore -q_{n-3} = \frac{p_{n-2} + \frac{p_{n-1} + \frac{p_n}{h}}{h}}{h}$$

.....
.....

斯様ニシテ最後ニ得ル商ハ $-q_0$ ニシテ。從ツテ $-p_0$ ニ等シカルベシ。故ニ p_n ノ總テノ因數ニ就キ此演算ヲ行ヒ。每次ノ商ガ悉ク整數ニシテ。最終ニ得ル商ガ $-p_0$ ニ等シキトキハ。用キタル p_n ノ因數ガ原方程式ノ整數根ナルベシ。又 $p_0=1$ ナルトキハ。斯様ニシテ總テノ整數根ヲ求ムレバ。此等ハ原方程式ノ總テノ有理根ナルベシ。尚又方程式ノ第一項ノ係數 p_0 ガ1ナラザルトキハ。方程式ノ變換(第29條)ニヨリ之レヲ第一項

ノ係數ガ1ナル方程式ニ化シ。而シテ後ニ上記ノ方法ヲ適用スレバ。總テノ有理根ヲ求メ得ラルベシ。

以上ノ方法ヲにうとんノ除數法(Newton's method of divisors)ト稱ス。

此方法ヲ實際ニ適用スルニハ。先ヅ $f(x)$ ノ係數

$$\begin{array}{cccccc} p_n & p_{n-1} & p_{n-2} & \dots\dots\dots & p_0 & \\ h & \frac{p_n}{h} & \frac{-hq_{n-2}}{h} & \dots\dots\dots & -q_0 & \\ \hline & -hq_{n-2} & -hq_{n-3} & \dots\dots\dots & 0 & \end{array}$$

$p_0, p_1, p_2, \dots, p_{n-2}, p_{n-1}, p_n$ ノ順序ヲ全ク逆ニ排列シ。
 $\frac{p_n}{h}$ ヲ p_{n-1} ノ下ニ書シ其和 $-hq_{n-2}$ ヲ求ム。次ニ $\frac{-hq_{n-2}}{h}$ ヲ p_{n-2} ノ下ニ書シ其和 $-hq_{n-3}$ ヲ求ム。斯様ニシテ終ニ p_0 ノ處ニ至リ其和0トナレバ。 h ハ方程式 $f(x)=0$ ノ整數根ナルコトヲ知ルベシ。

斯様ニシテ例ヘバーツノ整數根 h ヲ求メ得タリトスレバ。次ノ整數根ヲ求メンニハ。

$$p_n \quad p_{n-1} \quad p_{n-2} \quad \dots\dots\dots p_0$$

ニ就キテ除數法ヲ行ハズトモ。第二行ナル

$$\frac{p_n}{h}, \quad \frac{-hq_{n-2}}{h}, \quad \dots\dots\dots, \quad -q_0$$

ノ各項ノ符號ヲ變ジタルモノ。即チ

$$q_{n-1}, \quad q_{n-2}, \quad \dots\dots\dots, \quad q_0$$

ニ就キテ除數法ヲ行ヘバ可ナルベシ。之レ此等ハ $f(x)$ ヲ $x-h$ ニテ除シタル商ノ係數ナルガ故ナリ。

例(1) 次ノ方程式ヲ解ケ。

$$x^4 + x^3 - 2x^2 + 4x - 24 = 0$$

[解] 先ヅ。此方程式ノ整數根ヲ求ムルニ。

$$p_0=1, \quad p_1=1, \quad p_2=-2, \quad p_3=4, \quad p_4=-24$$

ニシテ。其整數根ハ p_4 即チ -24 ノ因數ナルベシ。然ルニ此方程式ノ正根及ビ負根ノ上限ヲ求ムレバ。夫々3及ビ -4 ヲ得ルヲ以ツテ(第42及44條参照)。整數根ハ

$$2, \quad 1, \quad -1, \quad -2, \quad -3$$

ノ中ナルベシ。故ニ除數法ヲ適用スレバ。

$$\begin{array}{cccccc} p_4 & p_3 & p_2 & p_1 & p_0 & \\ -24 & 4 & -2 & 1 & 1 & \\ 2 & -12 & -4 & -3 & -1 & \\ \hline & -8 & -6 & -2 & 0 & \end{array} \quad \therefore x=2$$

1及ビ -1 ハ除數法ヲ行フヨリ。直接ニ方程式ニ代入シテ根ナルカ否カヲ檢スルヲ便トス。此場合ニハ何レモ根ニアラザルコトヲ見ルベシ。次

ルコトヲ知ル。次ニ

$$\begin{array}{r} -30 \quad 31 \quad 35 \quad -23 \quad 3 \\ 5 \quad \quad -6 \quad 5 \quad 8 \quad -3 \\ \hline \quad \quad 25 \quad 40 \quad -15 \quad 0 \end{array}$$

$$\therefore x=5$$

$$\begin{array}{r} 6 \quad -5 \quad -8 \quad 3 \\ 3 \quad \quad 2 \quad -1 \quad -3 \\ \hline \quad \quad -3 \quad -9 \quad 0 \end{array}$$

$$\therefore x=3$$

$$\begin{array}{r} -2 \quad 1 \quad 3 \\ 2 \quad \quad -1 \quad 0 \\ \hline \quad \quad 0 \end{array}$$

$$\therefore 2 \text{ハ根ナラズ}$$

残りノ根ヲ見出サンニ。方程式ノ左邊ヲ $(x-5)$
 $\times (x-3)$ 即チ $x^2-8x+15$ ニテ除セバ商トシテ $3x^2+$
 $x-2$ ヲ得ベク。残りノ根ハ

$$3x^2+x-2=0 \quad (x+1)(3x-2)=0$$

$$\therefore \left. \begin{array}{l} x=-1 \\ x=\frac{2}{3} \end{array} \right\}$$

ナルベシ。故ニ所要ノ有理根ハ

$$5, \quad 3, \quad -1, \quad \frac{2}{3}$$

ナリ。

56. にうとんノ略近法。數方程式ノ無理根ハ。必要ノ度ニ應ジテ其略近値ヲ求メ得ルコトヲ既ニ述ベタリ。にうとんノ略近法 (Newton's method of approximation) ハ即チ此目的ヲ達スル一ツノ方法ニシテ。數方程式ノ各實根 (有理根及ビ無理根共) ヲ根ノ分割法ニヨリ他ノ根ヨリ分割シ。根ノ大略ノ値ノ範圍ヲ求メ。此法ヲ反覆適用シテ必要ノ程度マデ漸次ニ眞値ニ近キ略近値ヲ求ムルモノナリ。

今方程式 $f(x)=0$ ノ一ノ根ガ $a+h$ ニシテ其 a ヲ求ムルコトヲ得タリトセバ。

$$f(a+h)=0$$

即チ

$$f(a)+hf'(a)+\frac{h^2}{2}f''(a)+\dots=0$$

h ノ絶對値ガ充分小ナルトキハ。 h^2, h^3, \dots ハ h ニ比シテ絶對値ガ甚ダ小ナルヲ以ツテ。 h^2, h^3, \dots ノ諸項ヲ省略スレバ。

$$f(a)+hf'(a)=0$$

$$hf'(a)=-f(a)$$

$$h=-\frac{f(a)}{f'(a)}$$

$$\therefore a+h=a-\frac{f(a)}{f'(a)}$$

トナルベシ。然レドモ斯様ニシテ求メ得タル $a+h$ ノ値ハ尙根ノ眞値ニアラズ。故ニ斯様ニシテ求メ得タル値ヲ b トシ。根ノ眞値ヲ $b+k$ トスレバ。

$$k = \text{根ノ眞値} - b$$

$$h = \text{根ノ眞値} - a$$

ニシテ。 k ハ h ヨリ小ナリ。再ビ

$$f(b+k)=0$$

$$f(b) + kf'(b) + \frac{k^2}{2}f''(b) + \dots = 0$$

k ニ比シテ k^2, k^3, \dots ハ絶對値甚ダ小ナルヲ以ツテ。此等ヲ省略スレバ

$$f(b) + kf'(b) = 0$$

$$kf'(b) = -f(b)$$

$$k = -\frac{f(b)}{f'(b)}$$

$$\therefore b+k = b - \frac{f(b)}{f'(b)}$$

斯様ニシテ此方法ヲ反覆適用スレバ。根ノ眞値ニ如何様ニモ接近セル略近値ヲ得ラル、ナリ。

此方法ハ計算稍、複雑ナリト雖モ。根ノ眞値ニ接近スルコト迅速ナレバ大ニ便利ナルコトアリ。

例 根ノ分割法ニヨリ。次ノ方程式ノ正根ガ2ト2.2トノ間ニアルコトヲ知ル。にうとんノ略近法ヲ二回適用シテ此正根ノ略近値ヲ計算セヨ。

$$x^3 - 2x - 5 = 0$$

[解] 此正根ノ眞値ヲ $x=2.1+h$ トスレバ。 h ハ正ナルカ或ハ負ナルカ。何レニシテモ0.1ヨリ小ナリ。にうとんノ略近法ヲ適用スレバ。

$$\left. \begin{aligned} a &= 2.1 \\ f(x) &= x^3 - 2x - 5 \\ f'(x) &= 3x^2 - 2 \end{aligned} \right\}$$

$$\begin{aligned} h &= -\frac{f(a)}{f'(a)} = -\frac{f(2.1)}{f'(2.1)} = -\frac{(2.1)^3 - 2(2.1) - 5}{3(2.1)^2 - 2} \\ &= -\frac{0.061}{11.23} = -0.000543 \end{aligned}$$

$$a+h = 2.1 - 0.000543 = 2.09457$$

次ニ。

$$b = 2.09457$$

$$k = -\frac{f(b)}{f'(b)} = -\frac{f(2.09457)}{f'(2.09457)}$$

$$= -\frac{(2.09457)^3 - 2(2.09457) - 5}{3(2.09457)^2 - 2}$$

$$= -0.00004852$$

$$b+k=2.09457-0.00004852=2.09452148$$

57. ほ - な - ノ 數 方 程 式 解 法。 數 方 程 式 ノ 解 法 中 最 モ 實 用 ニ 適 ス ル モ ノ ハ ほ - な - ノ 法 (Horner's method) ニ シ テ。 有 理 根 ニ テ モ 無 理 根 ニ テ モ 總 テ 實 根 ハ 此 法 ニ ヨ リ テ 求 ム ル コ ト ヲ 得 ベ シ。

此 法 ノ 原 則 ハ。 先 ツ 數 方 程 式 ノ 實 根 ノ 整 數 部 ヲ 見 出 シ。 各 根 ヲ 此 整 數 部 ダ ケ 減 少 シ テ 第 二 方 程 式 ヲ 作 ル。 次 ニ 根 ノ 小 數 第 一 位 ヲ 求 メ ン ニ ハ。 第 二 方 程 式 ノ 根 ヲ 10 倍 シ テ 其 整 數 部 ヲ 見 出 シ。 再 ビ 此 整 數 部 ダ ケ ヲ 減 少 シ テ 第 三 方 程 式 ヲ 作 ル。 此 ノ 方 法 ヲ 反 覆 適 用 シ テ 小 數 第 二 位, 第 三 位, …… ト 順 次 ニ 求 メ テ 根 ノ 眞 値 ニ 接 近 ス ル ニ ア リ。 次 ニ 例 ニ 就 キ 精 細 ニ 之 レ ヲ 說 カ ン ト ス。

例 次 ノ 方 程 式 ノ 正 根 ヲ 求 ム。

$$2x^3 - 85x^2 - 85x - 87 = 0$$

[解] 先 ツ 根 ノ 分 割 法 ニ ヨ ル カ 或 ハ 視 察 ニ ヨ リ 正 根 ノ 位 置 ヲ 求 ム レ バ。 此 方 程 式 ニ ハ 40 ト 50

ト ノ 間 ニ 一 個 ノ 正 根 ア ル コ ト ヲ 知 リ 得 ベ シ。 此 根 ヲ 求 ム ル 手 續 ヲ 數 段 ニ 分 テ バ。

(1) 各 根 ヲ 40 ダ ケ 減 少 シ テ 第 二 方 程 式 ヲ 作 ル。

$$\begin{array}{r|rrrr} 40 & 2 & -85 & -85 & -87 \\ & & 80 & -200 & -11400 \\ \hline & & -5 & -285 & (-11487) \\ & & 80 & 3000 & \\ \hline & & 75 & (2715) & \\ & & 80 & & \\ \hline & 2 & (155) & & \end{array}$$

$$\therefore 2x^3 + 155x^2 + 2715x - 11487 = 0$$

(2) 此 方 程 式 ノ 正 根 ノ 位 置 ヲ 求 ム レ バ 3 ト 4 ト ノ 間 ニ ア リ。 故 ニ 各 根 ヲ 3 ダ ケ 減 少 シ テ 第 三 方 程 式 ヲ 作 ル。

$$\begin{array}{r|rrrr} 3 & 2 & 155 & 2715 & -11487 \\ & & 6 & 483 & 9594 \\ \hline & & 161 & 3198 & (-1893) \\ & & 6 & 501 & \\ \hline & & 167 & (3699) & \\ & & 6 & & \\ \hline & 2 & (173) & & \end{array}$$

$$\therefore 2x^3 + 173x^2 + 3699x - 1893 = 0$$

(3) 第 三 方 程 式 ノ 正 根 ハ 小 數 以 下 ナ ル ヲ 以 ツ テ。 小 數 第 一 位 ヲ 求 ム ル 爲 メ ニ 根 ヲ 10 倍 ス レ バ

$$2x^3 + 173 \times 10x^2 + 3699 \times 10^2x - 1893 \times 10^3 = 0$$

$$\therefore 2x^3 + 1730x^2 + 369900x - 1893000 = 0$$

ヲ得ベク。此方程式ノ正根ノ整数部ハ原方程式ノ正根ノ小数第一位ナリ。

終リノ方程式ノ正根ノ位置ヲ求ムレバ。5ト6トノ間ニアリ。故ニ各根ヲ5ダケ減少シテ第四方程式ヲ作ル。

2	1730	369900	-1893000	
5	10	8700	1893000	
	1740	378600	(0)	
	10	8750		
	1750	(387350)		
	10			
2	(1760)			

$$\therefore 2x^3 + 1760x^2 + 387350x = 0$$

斯様ニシテ。小数以下所要ノ數字マデ計算スルコトヲ得ベシ。然ルニ此例ニテハ第四方程式ヲ見ルニ。

$$x(2x^2 + 1760x + 387350) = 0$$

$$\therefore x = 0$$

$$2x^2 + 1760x + 387350 = 0$$

此終リノ二次方程式ノ二根ヲ α, β トスレバ。

原方程式ノ三根ハ

$$43.5, \quad 43.5 + \alpha, \quad 43.5 + \beta$$

ニシテ。所要ノ正根ハ 43.5 ナリ。

以上ノ計算ヲ集メテ實際ノ演算式次ノ如シ。

40	2	-85	-85	-87	(43.5
		80	-200	-11400	
		-5	-285	(-11487)	
		80	3000	9594	
		75	(2715)	(-1893000)	
		80	483	1893000	
		(155)	3198	0	
		6	501		
		161	(369900)		
		6	8700		
		167	378600		
		6			
		(1730)			
		10			
		1740			

58. 試除數法。方程式ノ根ノ初メ若干個ノ數字ヲ見出スコトヲ得バ。次ノ若干個ノ數字ハ除法ニ依ツテ求ムルコトヲ得ベシ。既ニ第56條ニ於テ根 $a+h$ ノ a ヲ見出スコトヲ得バ。 h ガ a ニ比シテ充分小ナルトキニ。 h ハ

$$h = -\frac{f(a)}{f'(a)}$$

ナル除法ニ依ツテ求メ得ルコトヲ見タリ。而シテほニソノ法ヲ適用シテ a ヲ見出シタル場合ハ。 $f(a)$ ハ各變換方程式ノ最終係數ニシテ $f'(a)$ ハ

終リヨリ第二番目 = 當ル係數ナリ。何トナレバ
方程式 $y = x - a$ 即チ $x = y + a$ ト置キタル各變換
方程式 $f(y + a) = 0$ ハ

$$f(a) + f'(a)y + \frac{f''(a)}{2}y^2 + \dots + \frac{f^{(n-1)}(a)}{(n-1)}y^{n-1} + \frac{f^{(n)}(a)}{n}y^n = 0$$

即チ

$$\frac{f^{(n)}(a)}{n}y^n + \frac{f^{(n-1)}(a)}{(n-1)}y^{n-1} + \dots + \frac{f''(a)}{2}y^2 + f'(a)y + f(a) = 0$$

ナルガ故ナリ。此意味ヨリ各變換方程式ノ終リ
ヨリ第二番目 = 當ル係數ヲ試除數 (Trial divisor) ト
稱ス。前條ノ例 = 於テ例ヘバ。ほ - な - ノ法 = ヨ
リ 43 ヲ見出シタリトスレバ。5 ハ次ノ如ク除法
ニテ求ムルコトヲ得ベシ。

$$a = 43$$

$$f(a) = -1893$$

$$f'(a) = 3699$$

$$\therefore h = -\frac{f(a)}{f'(a)} = -\frac{-1893}{3699} = \frac{1893}{3699} = .5 \dots$$

此法ハ h ガ a = 比シテ其絶對値小ナレバ小ナル
程。除法ニヨリテ多クノ數字ヲ正シク求ムルコ
トヲ得ベシ。故ニ實際ニ於テハ。成ルベク多クノ

數字ヲほ - な - ノ法ニテ見出シ。而シテ後ニ之
レヲ適用スルヲ可トス。

例 次ノ方程式ノ 9 ト 10 トノ間ニアル根ヲ小
數第三位迄正シク求メヨ。

$$x^4 - 3x^2 + 75x - 10000 = 0$$

[解] 各根ヲ 9 ダケ減少スレバ。

9	1	0	-3	75	-10000	
		9	81	702	6993	
		9	78	777	(-3007)	
		9	162	2160		
		18	240	(2937)		
		9	243			
		27	(483)			
		9				
	1					(36)

各根ヲ 10 倍スレバ。

$$x^4 + 360x^3 + 48300x^2 + 2937000x - 30070000 = 0$$

所要ノ根ノ位置ヲ求ムレバ。8 ト 9 トノ間ニアリ。
故ニ各根ヲ 8 ダケ減少スレバ。

8	1	360	48300	2937000	-30070000	
		8	2944	409952	26775616	
		368	51244	3346952	(-3294384)	
		8	3008	434016		
		376	54252	(3770968)		
		8	3072			
		384	(57324)			
		8				
	1					(392)

次ニ試除數法ヲ行ヘバ。

$$\frac{f(a)}{f'(a)} = \frac{3294384}{3770968} = 8.886\dots$$

試除數法ヲ行ヒテ得タル商ガ(此例ニテハ 8)ガ或ハ過大ナラザルカヲ檢センニハ。此商ダケ減少演算ヲ行ヒ。最終ノ係數ガ此演算ニ於テ符號ヲ變ズルカ否カニ依ツテ判定スルコトヲ得ベク。若シ符號ヲ變ズレバ過大ナルモノナルヲ以ツテ尙小ナルモノヲ取ラザルベカラズ。此例ニ於テハ。

1	3920	5732400	3770968000	-32943840000
8	8	31424	46110592	30536628736
	3928	5763824	3817078592	-2417211264

最終ノ係數ハ符號ヲ變ゼザルヲ以ツテ。過大ニハアラザルナリ。依ツテ又各根ヲ10倍シタルモノヨリ8ヲ減少スレバ。

1	3920	5732400	3770968000	-32943840000
8	8	31424	46110592	30536628736
	3928	5763824	3817078592	(-2417211264)
	8	31488	46362496	
	3936	5795312	(3863441088)	
	8	31552		
	3944	(5826864)		
	8			
1	(3952)			

再ビ試除數法ヲ行ヘバ。

$$\frac{f(a)}{f'(a)} = \frac{2417211264}{3863441088} = 6.257\dots$$

之レ又前ト同様ニ過大ニアラザルコトヲ知リ得ベシ。依ツテ所要ノ根ハ 9.886 ナリ。

以上ノ演算ヲ一式ニ集ムレバ次ノ如シ。

9	1	0	-3	75	-10000	(9.886)
		9	81	702	6993	
		9	78	777	(-30070000)	
		9	162	2160	-26775616	
		18	240	2937000	(-32943840000)	
		9	243	409952	30536628736	
		27	48300	3346952	-2417211264	
		9	2914	434016		
8		360	51244	(3770968000)		
		8	3008	46110592		
		368	54252	3817078592		
		8	3072	46362496		
		376	(5732400)	3363441088		
		8	31424			
		384	5763824			
		8	31488			
		(3920)	5795312			
8		8	31552			
		3928	5826864			
		8				
		3936				
		8				
		3944				
		8				
		3952				

59. 接近セル根アル場合ニハ一な一解法ノ適用。甚ダ接近セル二根(若クハ以上)ヲ有スル數方程式ニハ一な一解法ヲ適用センニハ。先ヅ二根ニ共通ナル整數部ダケヲ減少シ。次デ各根ヲ10倍スレバ此變換方程式ニハ0ト10トノ間ニ

二根アルコトナルベシ。而シテ二根ノ位置ヲ分割ス。若シ分割シ得ザレバ再ビ共通ナル整数部ダケヲ減少シ。更ニ又各根ヲ10倍ス。斯様ニシテ二根ガ分割セラレ、迄此法ヲ適用シ。終ニ分割セラレ、ニ至ラバ。各根ニ就キテ別々ニほゝなゝ解法ヲ適用スルナリ。二根ガ分割セラレザル間ハ。試除法ヲ行フモ無効ナルコトヲ忘ルベカラズ。

例 次ノ方程式ハ1ト2トノ間ニ二根ヲ有ス。此等ヲ小数第五位マデ求メヨ。

$$x^3 - 7x + 7 = 0$$

【解】 先ヅ二根ニ共通ナル整数部即チ1ヲ減少スレバ。

$$\begin{array}{r|rrrr}
 1 & 1 & 0 & -7 & 7 \\
 & & 1 & 1 & -6 \\
 \hline
 & & 1 & -6 & (1) \\
 & & 1 & 2 & \\
 \hline
 & & 2 & & (-4) \\
 & & 1 & & \\
 \hline
 & 1 & (3) & &
 \end{array}$$

$$\therefore x^3 + 3x^2 - 4x + 1 = 0$$

次ニ各根10倍スレバ。

$$x^3 + 30x^2 - 400x + 1000 = 0$$

トナル。此方程式ハ0ト10トノ間ニ二根ヲ有スベク此等ノ位置ヲ定ムレバ。3ト4トノ間ニ一根又6ト7トノ間ニ一根アリ。故ニ此等ノ二根ニ就キテ別々ニほゝなゝ解法ヲ適用スルコト次ノ如シ。

(i) 3ト4トノ間ニアル根ヲ求ムルコト。

$$\begin{array}{r|rrrr}
 3 & 1 & 30 & -400 & 1000 \\
 & & 3 & 99 & -903 \\
 \hline
 & & 33 & -301 & (97000) \\
 & & 3 & 108 & -86625 \\
 \hline
 & & 36 & (-19300) & (10375000) \\
 & & 3 & 1975 & -9048984 \\
 \hline
 5 & & (390) & -17325 & (1326016) \\
 & & 5 & 2000 & \\
 \hline
 & & 395 & (-1532500) & \\
 & & 5 & 24366 & \\
 \hline
 & & 400 & -1508164 & \\
 & & 5 & 24372 & \\
 \hline
 & & (4050) & (-1483792) & \\
 6 & & 6 & & \\
 \hline
 & & 4056 & & \\
 & & 6 & & \\
 \hline
 & & 4062 & & \\
 & & 6 & & \\
 \hline
 & & (4068) & &
 \end{array}$$

以下試除法ニヨレバ。

$$\frac{1326016}{1483792} = .89\dots\dots$$

故ニ所要ノ根ハ1.35689ナリ。

(ii) 6 と 7 との間ニアル根ヲ求ムルコト。

1	30	-400	1000	(692
6	6	216	-1104	
	36	-184	(-10400)	
	6	252	100809	
	42	(6800)	(-3191000)	
	6	4401	3156888	
9	(480)	11201	(-34112)	
	9	4482		
	489	(1558300)		
	9	10144		
	498	1578444		
	9	10148		
	(5070)	(1588592)		
2	2			
	5072			
	2			
	5074			
	2			
	(5076)			

以下試除法ニ依レバ

$$\frac{34112}{1588592} = .02146\ldots$$

故ニ所要ノ根ハ 1.69202 ナリ。

第十三章

複習問題

(1) 次ノ除法ノ商 Q 及ヒ剰餘 R ヲ求ム。

(i) $(x^3 + x^2 - 10x + 113) \div (x + 4)$

(ii) $(3x^4 + 5x^3 + 10x^2 + 11x - 1) \div (x - 3)$

答 (i) $Q = x^2 - 4x^3 + 16x^2 - 63x + 242$

$R = -855$

(ii) $Q = 3x^3 + 4x^2 + 22x + 77$

$R = 230$

(2) 次式ノ極大、極小ヲ求メ、且ツ曲線ヲ書ケ。

(i) $x(4-x)$

(ii) $2x^3 - 3x^2 - 36x + 14$

答 (i) $x=2$ 極大値 4

(ii) $x=3$ 極小値 -67

$x=-2$ 極大値 58

(3) $-\frac{3}{2}, 3, \frac{1}{7}$ ヲ根トスル有理整方程式如何。

答 $14x^3 - 23x^2 - 60x + 9 = 0$

- (4) 一根が $-2+\sqrt{3}$ ナルコトヲ知ツテ。次ノ方程式ヲ解ケ。

$$x^4+2x^3-5x^2+6x+2=0$$

答 $-2\pm\sqrt{3}, 1\pm\sqrt{-1}$

- (5) 次ノ方程式ガ少クトモニツノ虚根ヲ有スルコトヲ證明セヨ。

$$x^6-3x^2-x+1=0$$

- (6) p, q ガ正數ナルトキハ。方程式

$$x^3-px+q=0$$

ガ一ツノ負根ヲ有シ。他ノ二根ハ共ニ正根ナルカ若クハ虚根ナルコトヲ證明セヨ。

- (7) 四根ガ二ツ々、相等シキコトヲ知ツテ。次ノ方程式ヲ解ケ。

$$x^4+4x^3-2x^2-12x+9=0$$

答 $1, 1, -3, -3$

- (8) 二根ノ比ガ $3:2$ ニ等シキコトヲ知ツテ。次ノ方程式ヲ解ケ。

$$x^3-9x^2+14x+24=0$$

答 $6, 4, -1$

- (9) 方程式 $x^3-px^2+qx-r=0$ ノ二根ノ和ガ 0 ナル

トキハ。 $pq-r=0$ ナルコトヲ證明セヨ。

- (10) 方程式 $x^3-px^2+qx+r=0$ ノ三根ガ等比級數ヲナス爲メニ。必要ナル條件ヲ求ム。

答 $p^3r+q^3=0$

- (11) ニツノ方程式

$$\left. \begin{aligned} x^3+ax^2+bx+c=0 \\ x^3+a'x^2+b'x+c'=0 \end{aligned} \right\}$$

ガ共通ナル二根ヲ有スルトキハ。此二根ヲ根トスル方程式ハ

$$x^2+\frac{b-b'}{a-a'}x+\frac{c-c'}{a-a'}=0$$

ニシテ。且ツ共通ナラザル根ハ夫々

$$\frac{-c(a-a')}{c-c'}, \frac{-c'(a-a')}{c-c'}$$

ナルコトヲ證明セヨ。

- (12) 方程式 $x^3+px^2+qx+r=0$ ノ三根ヲ a, β, γ トスレバ。

$$\frac{\beta^2+\gamma^2}{\beta\gamma}+\frac{\gamma^2+a^2}{\gamma a}+\frac{a^2+\beta^2}{a\beta}$$

ノ値如何。

答 $\frac{pq}{r}-3$

(13) $\alpha + \beta\sqrt{-1}$ が方程式 $x^3 + px + q = 0$ の根ナルトキハ、 2α が方程式 $x^3 + px + q = 0$ の根ナルコトヲ證明セヨ。

(14) 方程式ノ變換ニヨリ。次ノ方程式ノ分數係數ヲ去レ。

$$x^4 - \frac{5}{6}x^3 + \frac{5}{12}x^2 - \frac{13}{900} = 0$$

答 $x^4 - 25x^3 + 375x^2 - 11700 = 0$

(15) 次ノ方程式ノ根ノ6倍ヲ根トスル方程式如何。

$$6x^3 - 3x^2 + 4x - 6 = 0$$

答 $x^3 - 3x^2 + 24x - 216 = 0$

(16) 次ノ方程式ノ各根ヲ2ツ、増加セヨ。

$$3x^4 + 7x^3 - 15x^2 + x - 2 = 0$$

答 $3x^4 - 77x^3 + 720x^2 - 2876x + 4058 = 0$

(17) 次ノ方程式ヲ變換シテ、 x^2 ノ項ヲ次ク方程式ヲ作レ。

$$x^4 - 4x^3 - 18x^2 - 3x + 2 = 0$$

答 $x^4 + 8x^3 - 111x - 196 = 0$

或ハ

$$x^4 - 8x^3 + 17x - 8 = 0$$

(18) 次ノ方程式ヲ解ケ。

$$x^8 - 2x^6 + 3x^4 - 2x^2 + 1 = 0$$

答 $\left. \begin{array}{l} \frac{\sqrt{3} \pm \sqrt{-1}}{2}, \frac{-\sqrt{3} \pm \sqrt{-1}}{2} \\ \text{各、二重根} \end{array} \right\}$

(19) 次ノ方程式ガ相反方程式ナルコトヲ證シ。且ツ之ヲ解ケ。

$$4(x^2 - x + 1)^3 - 27x^2(x - 1)^2 = 0$$

答 $\left. \begin{array}{l} 2, \frac{1}{2}, -1 \\ \text{各、二重根} \end{array} \right\}$

(20) 一般解法ヲ次ノ方程式ニ適用セヨ。

$$x^3 - 7x^2 + 19x - 13 = 0$$

答 $1, 3 \pm 2\sqrt{-1}$

(21) 次ノ方程式ノ複根ヲ求メヨ。

$$x^4 - 2x^3 - 11x^2 + 12x + 36 = 0$$

答 $\left. \begin{array}{l} -2, 3 \\ \text{各、二重根} \end{array} \right\}$

(22) 正根ノ上限ニ關スル二定理(I)及ビ(II)ヲ用キテ。次ノ方程式ノ正根ノ上限ヲ求メヨ。

$$x^8 + 20x^7 + 4x^6 - 11x^5 - 120x^4 + 13x - 25 = 0$$

答 共 = 6

(23) 次ノ方程式ノ實根ノ位置ヲ定メヨ。

$$x^5 - 3x^4 - 24x^3 + 95x^2 - 46x - 101 = 0$$

答 -10 ト 10 トノ間以外實根ナシ
 -10 ト -1 トノ間 = 一實根
 -1 ト 0 トノ間 = 一實根
 0 ト 1 トノ間 = 實根ナシ
 1 ト 10 トノ間 = 少クトモ一實根

(24) 次ノ方程式ノ實根ノ數及ビ位置ヲ求メヨ。

$$x^3 - 2x - 5 = 0$$

答 2 ト 3 トノ間 = 唯一ノ實根

(25) 次ノ方程式ノ實根ノ數及ビ位置ヲ求メヨ。

$$x^4 - 2x^3 - 3x^2 + 10x - 4 = 0$$

答 0 ト 1 トノ間 = 一實根
 -3 ト -2 トノ間 = 一實根
 其他二虛根

(26) 次ノ方程式ノ根ヲ吟味セヨ。

$$x^4 - 6x^3 + 13x^2 - 12x + 4 = 0$$

答 二ツノ異根
 $1, 2$
 各、二重根

(27) 次ノ方程式ノ整數根ヲ求ム。

$$x^4 - 2x^3 - 19x^2 + 68x - 60 = 0$$

(28) 次ノ方程式ノ正根ヲ求ム。

$$4x^3 - 13x^2 - 31x - 275 = 0$$

答 6.25

(29) 次ノ方程式ノ 4 ト 5 トノ間ニアル正根ヲ小数第四位迄計算セヨ。

$$x^3 + x^2 + x - 100 = 0$$

答 4.2644

(30) 次ノ方程式ノ 4 ト 5 トノ間ニアル二根ヲ小数第三位迄計算セヨ。

$$x^4 + 8x^3 - 70x^2 - 144x + 936 = 0$$

答 4.242
 4.216

附 錄

[I] 一元二次式

1. 一元二次式ノ値。一元二次式 ax^2+bx+c ノ値ハ。 x ノ値ノ變化ニ從ツテ。又變化スルモノナルコト明ラカナリ。今此値ノ變化ニ關シテ二三ノ定理ヲ説明スベシ。但シ以下改メテ注意スルニアラザレバ。 a, b, c ハ總ベテ實數ヲ表ハスモトスベシ。

[定理] (I) 方程式 $ax^2+bx+c=0$ ガ相異ナル二ツノ實根ヲ有スルトキ。

(i) x ガ此等ノ二根ノ間ノ値ヲ取ルトキハ。一元二次式 ax^2+bx+c ノ値ハ常ニ a ト異號ヲ有ス。

(ii) x ガ此等ノ二根ノ間以外ノ値ヲ取ルトキハ。一元二次式 ax^2+bx+c ノ値ハ常ニ a ト同號ヲ有ス。

(證) 方程式 $ax^2+bx+c=0$ ノ相異ナル二ツノ實根ヲ夫々 α, β トシ。且ツ $\alpha > \beta$ トスレバ。

$$ax^2+bx+c=a(x-\alpha)(x-\beta)$$

ナルベシ。而シテ

(i) $\alpha > x > \beta$ ナルトキハ。

$$x - \alpha < 0, \quad x - \beta > 0$$

$$\therefore (x - \alpha)(x - \beta) < 0$$

故ニ。

$$a > 0 \text{ ナラバ } a(x - \alpha)(x - \beta) < 0$$

$$a < 0 \text{ ナラバ } a(x - \alpha)(x - \beta) > 0$$

ニシテ。何レニシテモ一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ。aト反對ノ符號ヲ有スルコトヲ知ル。

(ii) $x > \alpha$ ナルトキハ尙更 $x > \beta$ ナリ。故ニ

$$x - \alpha > 0, \quad x - \beta > 0$$

$$\therefore (x - \alpha)(x - \beta) > 0$$

又 $x < \beta$ ナルトキハ尙更 $x < \alpha$ ナリ。故ニ

$$x - \alpha < 0, \quad x - \beta < 0$$

$$\therefore (x - \alpha)(x - \beta) > 0$$

故ニ何レノ場合ニ於テモ。

$$a > 0 \text{ ナラバ } a(x - \alpha)(x - \beta) > 0$$

$$a < 0 \text{ ナラバ } a(x - \alpha)(x - \beta) < 0$$

ニシテ。一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ。aト同ジ符號ヲ有スルコトヲ知ル。

[定理] (II) 方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ ガ相等シキニツノ實根(等根)ヲ有スルトキ。xノ實數値ニ關シテ一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ。常ニaト同號ヲ有ス。

(證) 方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ ノ相等シキニツノ實根ヲ α, α トスレバ

$$ax^2 + bx + c = a(x - \alpha)^2$$

ナルベシ。而シテxガ實數ニシテ $x \neq \alpha$ ナルトキハ。x - α ハ正ニテモ又負ニテモ

$$(x - \alpha)^2 > 0$$

ナリ。故ニ

$$a > 0 \text{ ナラバ } a(x - \alpha)^2 > 0$$

$$a < 0 \text{ ナラバ } a(x - \alpha)^2 < 0$$

ニシテ。一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ。aト同號ヲ有スルコトヲ知ル。

[定理] (III) 方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ ガ虚根ヲ有スルトキ。xノ實數値ニ關シテ一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ常ニaト同號ヲ有ス。

(證) 一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ヲ化スレバ。

$$ax^2 + bx + c = a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \frac{c}{a} \right\}$$

$$\begin{aligned}
 &= a \left\{ x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - \left(\frac{b}{2a}\right)^2 + \frac{c}{a} \right\} \\
 &= a \left\{ \left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{b^2}{4a^2} + \frac{c}{a} \right\} \\
 &= a \left\{ \left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 + \frac{4ac - b^2}{4a^2} \right\}
 \end{aligned}$$

而シテ方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ ガ虚根ヲ有スルヲ以ツテ $b^2 - 4ac < 0$ ナリ。且ツ $4a^2$ ハ a ガ正ニテモ負ニテモ常ニ正ナリ。故ニ

$$\frac{b^2 - 4ac}{4a^2} < 0 \quad \text{即チ} \quad \frac{4ac - b^2}{4a^2} > 0$$

尙 $x + \frac{b}{2a}$ ハ正ニテモ負ニテモ。

$$\left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 > 0$$

$$\therefore \left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 + \frac{4ac - b^2}{4a^2} > 0$$

此故ニ。

$$a > 0 \quad \text{ナラバ} \quad ax^2 + bx + c > 0$$

$$a < 0 \quad \text{ナラバ} \quad ax^2 + bx + c < 0$$

ニシテ。一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ a ト同號ヲ有スルコトヲ知ル。

以上ノ三定理ヲ合スレバ。次ノ如ク換言スルコトヲ得ベシ。

一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ。方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ ガ相異なる二ツノ實根ヲ有シ x ガ此等ノ二根ノ間ノ値ヲ取ル場合ヲ除ケバ。 x ノ實數値ニ關シテ常ニ a ト同號ヲ有ス。

例 一元二次式 $x^2 + px + \frac{p}{2}$ ガ。 x ノ實數値ニ關シテ常ニ正ナル爲メニハ。 p ノ値ノ範圍如何。

$$\begin{aligned}
 \text{[解]} \quad x^2 + px + \frac{p}{2} &= x^2 + px + \left(\frac{p}{2}\right)^2 - \left(\frac{p}{2}\right)^2 + \frac{p}{2} \\
 &= \left(x + \frac{p}{2}\right)^2 - \frac{p^2}{4} + \frac{p}{2} \\
 &= \left(x + \frac{p}{2}\right)^2 + \frac{2p - p^2}{4}
 \end{aligned}$$

而シテ $x + \frac{p}{2}$ ハ正ニテモ負ニテモ。 x ノ實數値ニ關シテ常ニ。

$$\left(x + \frac{p}{2}\right)^2 > 0$$

故ニ。初メノ二次式ガ x ノ實數値ニ關シテ常ニ正ナル爲メニハ。

$$\frac{2p - p^2}{4} > 0$$

ナラザルベカラズ。即チ

$$2p - p^2 > 0$$

$$p(2 - p) > 0$$

從ツテ次ノ二ツノ場合ノ何レカナルベシ。

$$\begin{array}{l|l} \text{i) } \left. \begin{array}{l} p > 0 \\ 2-p > 0 \end{array} \right\} & \text{(ii) } \left. \begin{array}{l} p < 0 \\ 2-p < 0 \end{array} \right\} \\ \text{即チ} & \text{即チ} \\ \left. \begin{array}{l} p > 0 \\ 2 > p \end{array} \right\} & \left. \begin{array}{l} p < 0 \\ 2 < p \end{array} \right\} \\ \therefore 2 > p > 0 & \text{斯様ナル } p \text{ ノ値ナシ。} \end{array}$$

此故ニ。所要ノ p ノ値ノ範圍ハ $2 > p > 0$ ナリ。

[定理 (IV)] $a > 0$ ナルトキ x ノ實數値ニ關シテ一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ。 $x = -\frac{b}{2a}$ ナルトキニ最小ナリ。又 $a < 0$ ナルトキ x ノ實數値ニ關シテ一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ。 $x = -\frac{b}{2a}$ ナルトキニ最大ナリ。

(證) 定理(III)ノ證明ト同様ニシテ。

$$\begin{aligned} ax^2 + bx + c &= a \left\{ \left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 + \frac{4ac - b^2}{4a^2} \right\} \\ &= a \left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 + a \times \frac{4ac - b^2}{4a^2} \\ &= \frac{4ac - b^2}{4a} + a \left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 \end{aligned}$$

ナリ。而シテ $a > 0$ ナルトキハ。 x ノ實數値ニ關シテ

$$a \left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 > 0$$

ナルヲ以ツテ。 $x + \frac{b}{2a}$ ガ 0 ニアラザレバ二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ常ニ $\frac{4ac - b^2}{4a}$ ヨリ大ナリ。故ニ

$$x + \frac{b}{2a} = 0 \quad \text{即チ} \quad x = -\frac{b}{2a}$$

ナルトキニ。二次式ノ値ハ最小ニシテ。其最小値ハ $\frac{4ac - b^2}{4a}$ ナリ。

次ニ。 $a < 0$ ナルトキハ。 x ノ實數値ニ關シテ

$$a \left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 < 0$$

ナルヲ以ツテ。 $x + \frac{b}{2a}$ ガ 0 ニアラザレバ。二次式 $ax^2 + bx + c$ ノ値ハ常ニ $\frac{4ac - b^2}{4a}$ ヨリ小ナリ。故ニ

$$x + \frac{b}{2a} = 0 \quad \text{即チ} \quad x = -\frac{b}{2a}$$

ナルトキニ。二次式ノ値ハ最大ニシテ。其最大値ハ $\frac{4ac - b^2}{4a}$ ナリ。

例 $ax(x-b) - b(x-a)^2$ ノ最大値若クハ最小値ヲ求ム。但シ $a \neq b$ トス。

$$\begin{aligned}
[\text{解}] \quad & ax(x-b) - b(x-a)^2 = ax^2 - abx - b(x^2 - 2ax + a^2) \\
& = (a-b)x^2 + abx - a^2b \\
& = (a-b) \left\{ x^2 + \frac{ab}{a-b}x - \frac{a^2b}{a-b} \right\} \\
& = (a-b) \left\{ x^2 + \frac{ab}{a-b}x + \left(\frac{ab}{2(a-b)} \right)^2 - \left(\frac{ab}{2(a-b)} \right)^2 - \frac{a^2b}{a-b} \right\} \\
& = (a-b) \left\{ \left(x + \frac{ab}{2(a-b)} \right)^2 - \frac{a^2b^2}{4(a-b)^2} - \frac{a^2b}{a-b} \right\} \\
& = (a-b) \left\{ \left(x + \frac{ab}{2(a-b)} \right)^2 - \frac{a^2b^2 + 4a^2b(a-b)}{4(a-b)^2} \right\} \\
& = (a-b) \left(x + \frac{ab}{2(a-b)} \right)^2 - \frac{a^2b(b+4a-4b)}{4(a-b)} \\
& = \frac{a^2b(3b-4a)}{4(a-b)} + (a-b) \left(x + \frac{ab}{2(a-b)} \right)^2
\end{aligned}$$

故 =。 $a-b > 0$ 即チ $a > b$ ナルトキハ。

$$x + \frac{ab}{2(a-b)} = 0, \quad x = -\frac{ab}{2(a-b)}$$

ナルトキニ。初メノ二次式ハ最小ニシテ。最小値ハ $\frac{a^2b(3b-4a)}{4(a-b)}$ ナリ。

又 $a-b < 0$ 即チ $a < b$ ナルトキハ。

$$x + \frac{ab}{2(a-b)} = 0, \quad x = -\frac{ab}{2(a-b)}$$

ナルトキニ。初メノ二次式ハ最大ニシテ。最大値ハ $\frac{a^2b(3b-4a)}{4(a-b)}$ ナリ。

2. 一元二次式ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、條件。

一元二次式 ax^2+bx+c ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、爲メニ必要ナル條件トシテ。次ノ定理アリ。

[定理] (I) 一元二次式 ax^2+bx+c ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、トキハ。 b^2-4ac ハ完全平方數ナリ。

(證) ax^2+bx+c ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラレタリトシ。

$$ax^2+bx+c = (Lx+M)(L'x+M')$$

$$= LL'x^2 + (LM' + L'M)x + MM'$$

トスレバ。兩邊ニ於ケル x ノ相當幂ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} a &= LL' \\ b &= LM' + L'M \\ c &= MM' \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。故 =

$$\begin{aligned}
 b^2 - 4ac &= (LM' + L'M)^2 - 4LL'MM' \\
 &= L^2M'^2 + 2LM'L'M + L'^2M^2 - 4LL'MM' \\
 &= L^2M'^2 - 2LM'L'M + L'^2M^2 \\
 &= (LM' - L'M)^2
 \end{aligned}$$

即ち $b^2 - 4ac$ は完全平方数ナルコトヲ知ル。

次ニ。一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、爲メニ充分ナル條件トシテ。次ノ定理アリ。

[定理] (II) $b^2 - 4ac$ ガ完全平方数ナルトキハ。一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ハニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラルベシ。

(證) 前條定理 (III) ノトキト同様ニ。

$$\begin{aligned}
 ax^2 + bx + c &= a \left\{ \left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 - \frac{b^2 - 4ac}{4a^2} \right\} \\
 &= a \left\{ \left(x + \frac{b}{2a} \right)^2 - \left(\frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \right)^2 \right\} \\
 &= a \left\{ \left(x + \frac{b}{2a} \right) + \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \right\} \left\{ \left(x + \frac{b}{2a} \right) - \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \right\} \\
 &= a \left(x + \frac{b + \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \right) \left(x + \frac{b - \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \right)
 \end{aligned}$$

然ルニ $b^2 - 4ac$ ガ完全平方数ナルトキハ、 $\sqrt{b^2 - 4ac}$

ハ有理数ナルベク。一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ハニツノ有理因数ノ積ニ分解シ得ラルナリ。

以上二定理ヲ合スレバ。次ノ如ク換言スルコトヲ得ベシ。

一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、爲メニ。必要ニシテ且ツ充分ナル條件ハ、 $b^2 - 4ac$ ガ完全平方数ナルコトナリ。

3. 一元二次式ガ完全平方式ナル條件。

一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ガ完全平方式ナル爲メニ必要ナル條件トシテ。次ノ定理アリ。

[定理] (I) 一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ガ完全平方式ナルトキハ $b^2 - 4ac = 0$ ナリ。

(證) $ax^2 + bx + c$ ガ完全平方式ナルトキハ。其平方根ハ一次式ナルガ故ニ。

$$\begin{aligned}
 ax^2 + bx + c &= (Lx + M)^2 \\
 &= L^2x^2 + 2LMx + M^2
 \end{aligned}$$

トシ。兩邊ニ於ケル x ノ相當器ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} a &= L^2 \\ b &= 2LM \\ c &= M^2 \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。此故ニ

$$\begin{aligned} b^2 - 4ac &= (2LM)^2 - 4L^2M^2 \\ &= 4L^2M^2 - 4L^2M^2 = 0 \end{aligned}$$

ナリ。

例 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} - \left(\frac{lx+my}{n}\right)^2$ が完全平方式ナルトキハ。

$$a^2l^2 + b^2m^2 = n^2$$

ナルコトヲ證明セヨ。但シ a, b, n ハ何レモ 0 ナラヌモノトス。

$$\begin{aligned} \text{[解]} \quad \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} - \left(\frac{lx+my}{n}\right)^2 &= \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} - \left(\frac{l^2x^2}{n^2} + \frac{2lmxy}{n^2} + \frac{m^2y^2}{n^2}\right) \\ &= \left(\frac{1}{a^2} - \frac{l^2}{n^2}\right)x^2 - \frac{2lm}{n^2}xy + \left(\frac{1}{b^2} - \frac{m^2}{n^2}\right)y^2 \end{aligned}$$

然ルニ。本式が完全平方式ナルヲ以ツテ。

$$\left\{-\frac{2lm}{n^2}\right\}^2 - 4\left(\frac{1}{a^2} - \frac{l^2}{n^2}\right)\left(\frac{1}{b^2} - \frac{m^2}{n^2}\right) = 0$$

$$\frac{4l^2m^2}{n^4} - 4 \times \frac{n^2 - a^2l^2}{a^2n^2} \times \frac{n^2 - b^2m^2}{b^2n^2} = 0$$

$$\frac{l^2m^2}{n^4} - \frac{(n^2 - a^2l^2)(n^2 - b^2m^2)}{a^2b^2n^2} = 0$$

$a \neq 0, b \neq 0, n \neq 0$ ナルヲ以ツテ分母ニ拂ヘバ。

$$a^2b^2l^2m^2 - (n^2 - a^2l^2)(n^2 - b^2m^2) = 0$$

$$a^2b^2l^2m^2 - n^4 + a^2l^2n^2 + b^2m^2n^2 - a^2b^2l^2m^2 = 0$$

$$-n^4 + a^2l^2n^2 + b^2m^2n^2 = 0$$

$$a^2l^2n^2 + b^2m^2n^2 = n^4$$

$$\therefore a^2l^2 + b^2m^2 = n^2$$

次ニ。一元二次式 $ax^2 + bx + c$ が完全平方式ナル爲メニ充分ナル條件トシテ。次ノ定理アリ。

[定理] (II) $b^2 - 4ac = 0$ ナルトキハ一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ハ完全平方式ナリ。但シ $a > 0$ ナリトス。

(證) 附録第1條定理 (III) ト同様ニシテ。

$$ax^2 + bx + c = a \left\{ \left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{b^2 - 4ac}{4a^2} \right\}$$

故ニ $b^2 - 4ac = 0$ ナルトキハ。

$$ax^2 + bx + c = a \left(x + \frac{b}{2a}\right)^2$$

即チ完全平方式ナルコトヲ知ル。

以上二定理ヲ合セテ次ノ如ク換言スルコトヲ得ベシ。

$a > 0$ ナル一元二次式 $ax^2 + bx + c$ ガ完全平方式ナル爲メニ。必要ニシテ且ツ充分ナル條件ハ。 $b^2 - 4ac = 0$ ナルコトナリ。

又。 $ax^2 + bx + c$ ガ完全平方式ナルコトハ。方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ ガ二重根(等根)ヲ有スルコトナルヲ以ツテ。此結果ハ次ノ如ク表ハスコトヲ得ベシ。一元二次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ ガ二重根(等根)ヲ有スル爲メニ。必要ニシテ且ツ充分ナル條件ハ。 $b^2 - 4ac = 0$ ナルコトナリ。

II 二元二次式

4. 二元二次式ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、條件。

二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、爲メニ。必要ナル條件トシテ次ノ定理アリ。

[定理] (I) 二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、トキハ。

$$\left. \begin{aligned} 2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc &= 0 \\ h^2 - ab &> 0 \end{aligned} \right\}$$

ナリ。

(證) 此二元二次式ガニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラレタリトシ。

$$\begin{aligned} ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c \\ = (Lx + My + N)(L'x + M'y + N') \end{aligned}$$

ト置キテ右邊ヲ相乗スレバ。

$$\begin{aligned} ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c \\ = LL'x^2 + (LM' + L'M)xy + MM'y^2 \\ + (LN' + L'N)x + (MN' + M'N)y + NN' \end{aligned}$$

ヲ得ベク。兩邊ニ於ケル相當項ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} a &= LL' \\ 2h &= LM' + L'M \\ b &= MM' \\ 2g &= LN' + L'N \\ 2f &= MN' + M'N \\ c &= NN' \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。故ニ

$$2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc$$

$$\begin{aligned} &= 2 \times \frac{MN' + M'N}{2} \times \frac{LN' + L'N}{2} \times \frac{LM' + L'M}{2} \\ &\quad - LL' \left(\frac{MN' + M'N}{2} \right)^2 - MM' \left(\frac{LN' + L'N}{2} \right)^2 \\ &\quad - NN' \left(\frac{LM' + L'M}{2} \right)^2 + LL' MM' NN' \\ &= \frac{1}{4} \{ (MN' + M'N)(LN' + L'N)(LM' + L'M) \\ &\quad - LL'(MN' + M'N)^2 - MM'(LN' + L'N)^2 \\ &\quad - NN'(LM' + L'M)^2 + 4LL' MM' NN' \} \\ &= \frac{1}{4} \{ L^2 MM' N'^2 + L^2 M'^2 NN' + LL' MM' NN' \\ &\quad + LL' M'^2 N^2 + LL' M^2 N'^2 + LL' MM' NN' \} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &+ L^2 M^2 NN' + L^2 MM' N'^2 - LL' M^2 N'^2 \\ &- 2LL' MM' NN' - LL' M'^2 N^2 - L^2 MM' N'^2 \\ &- 2LL' MM' NN' - L^2 MM' N'^2 - L^2 M'^2 NN' \\ &- 2LL' MM' NN' - L^2 M^2 NN' + 4LL' MM' NN' \} = 0 \end{aligned}$$

ニシテ。且ツ

$$\begin{aligned} 4h^2 - 4ab &= (LM' + L'M)^2 - 4LL' MM' \\ &= L^2 M'^2 + 2LM' L'M + L^2 M^2 - 4LL' MM' \\ &= L^2 M'^2 - 2LM' L'M + L^2 M^2 \\ &= (LM' - L'M)^2 > 0 \end{aligned}$$

即チ $4(h^2 - ab) > 0 \quad \therefore h^2 - ab > 0$

次ニ二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ ガニ
ツノ一次有理因數ニ分解シ得ラル、爲メニ。充
分ナル條件トシテ次ノ定理アリ。

[定理] (II) $2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc = 0$ 及ビ $h^2 - ab > 0$
ナルトキハ。二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$
ハニツノ一次有理因數ニ分解シ得ラルベシ。

(證) 此二元二次式ヲ x ノ降冪ニ列ベテ變化
スレバ。

$$\begin{aligned} ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c \\ &= ax^2 + 2(hy + g)x + (by^2 + 2fy + c) \\ &= a \left\{ x^2 + \frac{2(hy + g)}{a} x + \frac{by^2 + 2fy + c}{a} \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&= a \left\{ x^2 + \frac{2(hy+g)}{a}x + \left(\frac{hy+g}{a}\right)^2 - \frac{(hy+g)^2}{a^2} + \frac{by^2+2fy+c}{a} \right\} \\
&= a \left\{ \left(x + \frac{hy+g}{a}\right)^2 - \frac{(hy+g)^2}{a^2} + \frac{by^2+2fy+c}{a} \right\} \\
&= a \left\{ \left(x + \frac{hy+g}{a}\right)^2 - \frac{(h^2-ab)y^2 + 2(gh-af)y + (g^2-ac)}{a^2} \right\} \\
&= a \left\{ \left(x + \frac{hy+g}{a}\right)^2 - \frac{\left(\sqrt{(h^2-ab)y^2 + 2(gh-af)y + (g^2-ac)}\right)^2}{a} \right\} \\
&= a \left\{ x + \frac{hy+g}{a} + \frac{\sqrt{(h^2-ab)y^2 + 2(gh-af)y + (g^2-ac)}}{a} \right\} \times \\
&\quad \left\{ x + \frac{hy+g}{a} - \frac{\sqrt{(h^2-ab)y^2 + 2(gh-af)y + (g^2-ac)}}{a} \right\}
\end{aligned}$$

然ルニ。

$$2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc = 0$$

$$2afgh - a^2f^2 - abg^2 - ach^2 + a^2bc = 0$$

$$-abg^2 - ach^2 + a^2bc = -2afgh + a^2f^2$$

$$g^2h^2 - abg^2 - ach^2 + a^2bc = g^2h^2 - 2afgh + a^2f^2$$

$$g^2(h^2-ab) - ac(h^2-ab) = (gh-af)^2$$

$$(h^2-ab)(g^2-ac) = (gh-af)^2$$

$$\therefore (gh-af)^2 - (h^2-ab)(g^2-ac) = 0$$

且ツ。 $h^2-ab > 0$ ナルガ故ニ。 y ノ二次式

$$(h^2-ab)y^2 + 2(gh-af)y + (g^2-ac)$$

ハ完全平方式ナルコトヲ知ルベク。其平方根ハ

一次有理式ナルベシ。故ニ初メノ二元二次式ハ
ニツノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、コト明ラ
カナリ。

以上二定理ヲ合セテ。次ノ如ク換言スルコト
ヲ得ベシ。

二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ ガニツ
ノ一次有理因数ニ分解シ得ラル、爲メニ。
必要ニシテ且ツ充分ナル條件ハ。

$$2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc = 0 \text{ 及ビ } h^2 - ab > 0$$

ナルコトナリ。

例(1) 次ノ式ガニツノ一次有理因数ニ分解シ
得ラル、爲メニハ。 m ノ値如何。

$$3x^2 + mxy + 2y^2 + 5x - 4y + 1$$

[解] 此場合ニハ。

$$\begin{array}{l}
a=3 \\
2h=m \\
b=2 \\
2g=5 \\
2f=4 \\
c=1
\end{array}
\left. \vphantom{\begin{array}{l} a=3 \\ 2h=m \\ b=2 \\ 2g=5 \\ 2f=4 \\ c=1 \end{array}} \right\} \text{即チ}
\begin{array}{l}
a=3 \\
h=\frac{m}{2} \\
b=2 \\
g=\frac{5}{2} \\
f=-2 \\
c=1
\end{array}$$

故 =。

$$2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc = 0$$

= 此等ノ値ヲ置ケバ、

$$2(-2) \times \frac{5}{2} \times \frac{m}{2} - 3(-2)^2 - 2\left(\frac{5}{2}\right)^2 - 1 \times \left(\frac{m}{2}\right)^2 + 3 \times 2 \times 1 = 0$$

$$-5m - 12 - \frac{25}{2} - \frac{m^2}{4} + 6 = 0$$

$$-20m - 24 - 50 - m^2 = 0$$

$$m^2 + 20m + 74 = 0$$

$$\therefore m = -10 \pm \sqrt{10^2 - 74}$$

$$= -10 \pm \sqrt{26}$$

而シテ $m = -10 + \sqrt{26}$ ヲ取レバ、

$$h^2 - ab = \left(\frac{m}{2}\right)^2 - 3 \times 2 = \frac{1}{4}\{m^2 - 24\}$$

$$= \frac{1}{4}\{(-10 + \sqrt{26})^2 - 24\} = \frac{1}{4}\{100 + 26 - 20\sqrt{26} - 24\}$$

$$= \frac{1}{4}\{102 - 20\sqrt{26}\} = \frac{1}{4}\{\sqrt{102^2} - \sqrt{20^2 \times 26}\}$$

$$= \frac{1}{4}\{\sqrt{10404} - \sqrt{10400}\} > 0$$

又 $m = -10 - \sqrt{26}$ ヲ取レバ、同様 =

$$h^2 - ab = \frac{1}{4}\{(-10 - \sqrt{26})^2 - 24\}$$

$$= \frac{1}{4}\{102 + 20\sqrt{26}\} > 0$$

故 = 所要ノ値ハ。

$$m = -10 \pm \sqrt{26} \quad \text{答}$$

例(2) 次ノ聯立方程式ヲ解ケ。

$$\left. \begin{aligned} 5x^2 - 2xy + y^2 + 4x - 2y + 1 &= 0 \\ 4x^2 - 2xy + 2y^2 + 5x - 5y + 3 &= 0 \end{aligned} \right\}$$

[解]

$$5x^2 - 2xy + y^2 + 4x - 2y + 1 = 0 \dots \dots \dots (i)$$

$$4x^2 - 2xy + 2y^2 + 5x - 5y + 3 = 0 \dots \dots \dots (ii)$$

トシ。先ツ (i) ガ二ツノ一次有理因數ニ分解シ得ラル、カ否カラ檢スルニ。(i) ニテハ

$$\left. \begin{aligned} a &= 5 \\ 2h &= -2 \\ b &= 1 \\ 2g &= 4 \\ 2f &= -2 \\ c &= 1 \end{aligned} \right\} \text{即チ} \left. \begin{aligned} a &= 5 \\ h &= -1 \\ b &= 1 \\ g &= 2 \\ f &= -1 \\ c &= 1 \end{aligned} \right\}$$

$$2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc$$

$$= 2(-1) \times 2(-1) - 5(-1)^2 - 1 \times 2^2 - 1 \times (-1)^2 + 5 \times 1 \times 1$$

$$= 4 - 5 - 4 - 1 + 5 = -1 \neq 0$$

故ニ。(i) ハ二ツノ一次有理因數ニ分解スルコト

能ハズ。次ニ (ii) ニ就キテ同様ニ檢スレバ、

(ii) ニテハ

$$\left. \begin{array}{l} a=4 \\ 2h=-2 \\ b=2 \\ 2g=5 \\ 2f=-5 \\ c=3 \end{array} \right\} \text{即チ} \left. \begin{array}{l} a=4 \\ h=-1 \\ b=2 \\ g=\frac{5}{2} \\ f=-\frac{5}{2} \\ c=3 \end{array} \right\}$$

$$\begin{aligned} 2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc &= 2\left(-\frac{5}{2}\right)\left(\frac{5}{2}\right)(-1) - 4\left(-\frac{5}{2}\right)^2 - 2\left(\frac{5}{2}\right)^2 \\ &\quad - 3(-1)^2 + 4 \times 2 \times 3 \\ &= \frac{25}{2} - 25 - \frac{25}{2} - 3 + 24 = -4 \neq 0 \end{aligned}$$

故 =。 (ii) も亦二ツノ一次有理因数 = 分解スルコト能ハズ。

次 = (i) ヨリ (ii) ヲ減ジタル方程式

$$x^2 - y^2 - x + 3y - 2 = 0 \dots \dots \dots \text{(iii)}$$

= 就キテ同様 = 檢スレバ。 (iii) = テハ

$$\left. \begin{array}{l} a=1 \\ 2h=0 \\ b=-1 \\ 2g=-1 \end{array} \right\} \text{即チ} \left. \begin{array}{l} a=1 \\ h=0 \\ b=-1 \\ g=-\frac{1}{2} \end{array} \right\}$$

$$\left. \begin{array}{l} 2f=3 \\ c=-2 \end{array} \right\} \left. \begin{array}{l} f=\frac{3}{2} \\ c=-2 \end{array} \right\}$$

$$\begin{aligned} 2fgh - af^2 - bg^2 - ch^2 + abc &= -af^2 - bg^2 + abc \\ &= -1 \times \left(\frac{3}{2}\right)^2 - (-1)\left(-\frac{1}{2}\right)^2 + 1 \times (-1)(-2) \\ &= -\frac{9}{4} + \frac{1}{4} + 2 = 0 \end{aligned}$$

故 =。 此 (iii) ハ二ツノ一次有理因数 = 分解シ得ラルハコトヲ知リ得ベシ。 即チ (iii) ヲ化シテ。

$$x^2 - x - (y^2 - 3y + 2) = 0$$

$$x^2 - x - (y-1)(y-2) = 0$$

$$\{x+(y-2)\}\{x-(y-1)\} = 0$$

$$(x+y-2)(x-y+1) = 0$$

$$\therefore x+y-2=0 \dots \dots \dots \text{(iv)}$$

$$x-y+1=0 \dots \dots \dots \text{(v)}$$

依ツテ (iv) ト (i) 若クハ (ii) トヲ組合セテ解キ。

$$\left. \begin{array}{l} x = \frac{1 \pm \sqrt{-39}}{8} \\ y = \frac{15 \mp \sqrt{-39}}{8} \end{array} \right\}$$

ナル二組ノ根ヲ得ベク。又 (v) ト (i) 若クハ (ii) ト
ヲ組合セテ解キ。

$$\left. \begin{aligned} x &= \frac{-1 \pm \sqrt{-7}}{4} \\ y &= \frac{3 \pm \sqrt{-7}}{4} \end{aligned} \right\}$$

ナル二組ノ根ヲ得ベシ。以上四組ハ即チ所要ノ
根ナリ。

5. 二元二次式ガ完全平方式ナル條件。

二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ が完全平
方式ナル爲メニ。必要ナル條件トシテ次ノ定理
アリ。

[定理] (I) 二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$
ガ完全平方式ナルトキハ。 a, b, c ハ何レモ正ニシ
テ。 h, g, f ハ何レモ正ナルカ若クハ其中一ツガ正
ニシテ殘ル二ツガ負。且ツ

$$\left. \begin{aligned} h^2 - ab &= 0 \\ g^2 - ac &= 0 \\ f^2 - bc &= 0 \end{aligned} \right\}$$

ナリ

(證) $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ ガ完全平方式ナ

ルトキハ。其平方根ハ x, y ニ關スル一次式ナル
ガ故ニ。

$$\begin{aligned} ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c \\ &= (Lx + My + N)^2 \\ &= L^2x^2 + M^2y^2 + N^2 + 2LMxy + 2LNx + 2MMy \\ &= L^2x^2 + 2LMxy + M^2y^2 + 2LNx + 2MMy + N^2 \end{aligned}$$

トシ。兩邊ニ於ケル相當項ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} a &= L^2 & a &= L^2 \dots (i) \\ 2h &= 2LM & h &= LM \dots (ii) \\ b &= M^2 & b &= M^2 \dots (iii) \\ 2g &= 2LN & g &= LN \dots (iv) \\ 2f &= 2MN & f &= MN \dots (v) \\ c &= N^2 & c &= N^2 \dots (vi) \end{aligned} \right\} \text{即チ}$$

ヲ得ベシ。而シテ (i), (iii), (vi) ヨリ a, b, c ハ何レ
モ平方ナルガ故ニ。正ナルコトヲ知リ得ベシ。

次ニ (ii), (iv), (v) ヲ見レバ。 L, M, N ガ何レモ正
ニテモ負ニテモ此場合ハ h, g, f ガ何レモ正ニシ
テ。且ツ L, M, N ガ其中唯一ツガ正殘リ二ツガ負
ニテモ。唯二ツガ正殘リーツガ負ニテモ。此場合
ハ h, g, f ノ中唯一ツガ正殘リ二ツガ負ナルコト

ヲ知リ得ベシ。

尙又 (i) ヨリ (vi) = 至ル六關係ヨリ L, M, N ヲ消去スルニ。 (ii), (iv), (v) ヲ二乗スレバ。

$$\left. \begin{aligned} h^2 &= L^2 M^2 \\ g^2 &= L^2 N^2 \\ f^2 &= M^2 N^2 \end{aligned} \right\}$$

此等 = (i), (iii), (vi) ヨリ代用スレバ。

$$\left. \begin{aligned} h^2 &= ab \\ g^2 &= ac \\ f^2 &= bc \end{aligned} \right\} \text{即チ} \left. \begin{aligned} h^2 - ab &= 0 \\ g^2 - ac &= 0 \\ f^2 - bc &= 0 \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。

次ニ。二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ ガ完全平方式ナル爲メニ充分ナル條件トシテ。次ノ定理アリ。

[定理] (II) a, b, c ガ何レモ正ニシテ。 h, g, f ハ何レモ正ナルカ若クハ其中唯一ツガ正ニシテ残ルニツガ負。且ツ

$$\left. \begin{aligned} h^2 - ab &= 0 \\ g^2 - ac &= 0 \\ f^2 - bc &= 0 \end{aligned} \right\}$$

ナルトキハ。二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ ハ完全平方式ナリ。

(證) 前條定理 (II) ト同様ニシテ。

$$\begin{aligned} & ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c \\ &= a \left\{ \left(x + \frac{hy + g}{a} \right)^2 - \frac{(h^2 - ab)y^2 + 2(gh - af)y + (g^2 - ac)}{a^2} \right\} \end{aligned}$$

然ルニ。

$$h^2 - ab = 0 \quad \therefore h = \pm \sqrt{ab}$$

$$g^2 - ac = 0 \quad \therefore g = \pm \sqrt{ac}$$

$$f^2 - bc = 0 \quad \therefore f = \pm \sqrt{bc}$$

而シテ h, g, f ガ何レモ正ナルトキハ。

$$\begin{aligned} gh - af &= \sqrt{ac} \sqrt{ab} - a \sqrt{bc} \\ &= a \sqrt{bc} - a \sqrt{bc} = 0 \end{aligned}$$

又 h, g, f ノ中唯一ツガ正残ルニツガ負ナル場合ヲ分チテ。

$$\left. \begin{aligned} h > 0 \\ g < 0 \\ f < 0 \end{aligned} \right\} \text{ナルトキ } gh - af = (-\sqrt{ac}) \sqrt{ab} - a(-\sqrt{bc}) = 0$$

$$\left. \begin{aligned} h < 0 \\ g > 0 \\ f < 0 \end{aligned} \right\} \text{ナルトキ } gh - af = \sqrt{ac} (-\sqrt{ab}) - a(-\sqrt{bc}) = 0$$

$$\left. \begin{array}{l} h < 0 \\ g < 0 \\ f > 0 \end{array} \right\} \text{ナルトキ } gh - af = (-\sqrt{ac})(-\sqrt{ab}) - a\sqrt{bc} = 0$$

此故ニ何レノ場合ニテモ。

$$(h^2 - ab)y^2 + 2(gh - af)y + (g^2 - ac) = 0$$

ニシテ。從ツテ

$$\begin{aligned} ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c &= a \left(x + \frac{hy + g}{a} \right)^2 \\ &= a \left(x + \frac{hy + g}{a} \right)^2 \end{aligned}$$

ナリ。即チ二元二次式ガ完全平方式ナルコトヲ知リ得ベシ。

以上二定理ヲ合セテ次ノ如ク換言スルコトヲ得ベシ。

二元二次式 $ax^2 + 2hxy + by^2 + 2gx + 2fy + c$ ガ完全平方式ナル爲メニ。必要ニシテ且シ充分ナル條件ハ。 a, b, c ガ何レモ正ニシテ。 h, g, f ハ何レモ正ナルカ若クハ其中唯一ツガ正ニシテ残ル二ツガ負。且ツ

$$\left. \begin{array}{l} h^2 - ab = 0 \\ g^2 - ac = 0 \\ f^2 - bc = 0 \end{array} \right\}$$

ナルコトナリ。

例. 次ノ二元二次式ガ完全平方式ナル爲メニ。 l, m, n ノ値如何。

$$3x^2 - 4xy + ly^2 + mx - 5ny + 2$$

[解] 此場合ニ。

$$\left. \begin{array}{l} a = 3 \\ 2h = -4 \\ b = l \\ 2g = m \\ 2f = -5n \\ c = 2 \end{array} \right\} \text{即チ} \left. \begin{array}{l} a = 3 \\ h = -2 \\ b = l \\ g = \frac{m}{2} \\ f = -\frac{5n}{2} \\ c = 2 \end{array} \right\}$$

故ニ。

$$h^2 - ab = (-2)^2 - 3l = 0$$

$$\therefore l = \frac{4}{3}$$

$$g^2 - ac = \left(\frac{m}{2}\right)^2 - 3 \times 2 = 0$$

$$\frac{m^2}{4} - 6 = 0 \quad \therefore m = \pm 2\sqrt{6}$$

$$f^2 - bc = \left(-\frac{5n}{2}\right)^2 - l \times 2 = 0$$

$$\frac{25n^2}{4} - \frac{4}{3} \times 2 = 0$$

$$75n^2 - 32 = 0 \quad \therefore n = \pm \frac{4}{5} \sqrt{\frac{2}{3}}$$

而シテ。\$h\$ が負ナルヲ以ツテ \$g, f\$ ハ一ツガ正ニシテ一ツガ負ナラザルベカラズ。依ツテ所要ノ値ハ

$$\left. \begin{aligned} l &= \frac{4}{3} \\ m &= 2\sqrt{6} \\ n &= \frac{4}{5}\sqrt{\frac{2}{3}} \end{aligned} \right\} \quad \left. \begin{aligned} l &= \frac{4}{3} \\ m &= -2\sqrt{6} \\ n &= -\frac{4}{5}\sqrt{\frac{2}{3}} \end{aligned} \right\}$$

ナル二組ナリ。

[III] 一元三次方程式ノ複根

6. 一元三次方程式ノ二重根 一元三次方程式ガ複根ヲ有スル場合ハ。二重根若クハ三重根ナルベシ。而シテ二重根ノ場合ニ次ノ定理アリ。

[定理] 一元三次方程式 $x^3 + px^2 + qx + r = 0$ ガ二重根ヲ有スルトキハ。

$$p^2q^2 - 4(p^3r + q^3) + 18pqr - 27r^2 = 0$$

ナル關係アリ。

(證) 一元三次方程式 $x^3 + px^2 + qx + r = 0$ ガ二重根 α ヲ有スルトキハ。

$$\begin{aligned} x^3 + px^2 + qx + r &= (x - \alpha)^2(x - \beta) \\ &= x^3 - (2\alpha + \beta)x^2 + (\alpha^2 + 2\alpha\beta)x - \alpha^2\beta \end{aligned}$$

ナルベシ。但シ β ハ此三次方程式ノ殘ル一根ヲ表ハスモトス。而シテ兩邊ニ於ケル相當項ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} p &= -(2\alpha + \beta) \\ q &= \alpha^2 + 2\alpha\beta \\ r &= -\alpha^2\beta \end{aligned} \right\} \text{即チ} \left. \begin{aligned} 2\alpha + \beta &= -p \quad \dots (i) \\ \alpha^2 + 2\alpha\beta &= q \quad \dots (ii) \\ \alpha^2\beta &= -r \quad \dots (iii) \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。

次 =。此等ノ三關係ヨリ α, β ヲ消去スル =。(i)

ヨリ

★

$$\beta = -(2\alpha + p) \quad \dots \dots \dots \text{(iv)}$$

之レヲ (ii) = 置ケバ。

$$\alpha^2 - 2\alpha(2\alpha + p) = q$$

$$\therefore 3\alpha^2 + 2p\alpha + q = 0 \quad \dots \dots \text{(v)}$$

又 (iv)ヲ (iii) = 置ケバ。

$$-\alpha^2(2\alpha + p) = -r$$

$$\therefore 2\alpha^3 + p\alpha^2 - r = 0 \quad \dots \dots \text{(vi)}$$

尙 (v) $\times 2\alpha$ ヨリ (vi) $\times 3$ ヲ減ズレバ。

$$6\alpha^3 + 4p\alpha^2 + 2q\alpha - (6\alpha^3 + 3p\alpha^2 - 3r) = 0$$

$$\therefore p\alpha^2 + 2q\alpha + 3r = 0 \quad \dots \dots \text{(vii)}$$

而シテ。(v), (vii)ヲ α^2, α = 關スル聯立方程式トシテ解ケバ。

$$\alpha^2 = \frac{6pr - 2q^2}{6q - 2p^2}$$

$$\alpha = \frac{pq - 9r}{6q - 2p^2}$$

ヲ得ベク。從ツテ

$$\frac{6pr - 2q^2}{6q - 2p^2} = \left(\frac{pq - 9r}{6q - 2p^2} \right)^2$$

$$\therefore (6pr - 2q^2)(6q - 2p^2) = (pq - 9r)^2$$

ヲ得ベシ。尙之レヲ化シテ

$$3(6pqr - 12q^3 - 12p^3r + 4p^2q^2)$$

$$= p^2q^2 - 18pqr + 81r^2$$

$$3p^2q^2 - 12(p^3r + q^3) + 54pqr - 81r^2 = 0$$

$$\therefore p^2q^2 - 4(p^3r + q^3) + 18pqr - 27r^2 = 0$$

或ハ又。此定理ハ第42條定理 = ヨリ次ノ如ク證明

スルコトヲ得ベシ。今

$$f(x) = x^3 + px^2 + qx + r$$

トスレバ。

$$f'(x) = 3x^2 + 2px + q$$

故 = 三次方程式 $x^3 + px^2 + qx + r = 0$ ガ二重根 α ヲ有

スルトキハ。 α ハ二方程式

$$x^3 + px^2 + qx + r = 0$$

$$3x^2 + 2px + q = 0$$

ノ共通根ナルベシ。依ツテ此等ノ二方程式 = 適

合スルコトヲ知ル。即チ

$$\alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r = 0 \quad \dots \dots \text{(i)}$$

$$3\alpha^2 + 2p\alpha + q = 0 \quad \dots \dots \text{(ii)}$$

ナル二關係ヨリ α ヲ消去スル =。(i) $\times 3$ ヨリ (ii) $\times \alpha$

ヲ減ズレバ。

$$3\alpha^3 + 3p\alpha^2 + 3q\alpha + 3r - (3\alpha^3 + 2p\alpha^2 + q\alpha) = 0$$

$$\therefore p\alpha^2 + 2q\alpha + 3r = 0 \dots \dots \dots \text{(iii)}$$

依ツテ (ii), (iii) ヨリ α ヲ消去スレバ。本定理ノ結果ヲ得ルコト明ラカナリ。

系 一元三次方程式 $ax^3 + bx^2 + cx + d = 0$ ガ二重根ヲ有スルトキハ。

$$b^2c^2 - 4(b^3d + ac^3) + 18abcd - 27a^2d^2 = 0$$

ナル關係アリ。

(證) 此方程式ヲ化シテ。

$$x^3 + \frac{b}{a}x^2 + \frac{c}{a}x + \frac{d}{a} = 0$$

故ニ。本定理ノ關係ニ

$$p = \frac{b}{a}, \quad q = \frac{c}{a}, \quad r = \frac{d}{a}$$

ト置ケバ。

$$\left(\frac{b}{a}\right)^2 \left(\frac{c}{a}\right)^2 - 4\left\{\left(\frac{b}{a}\right)^3 \left(\frac{d}{a}\right) + \left(\frac{c}{a}\right)^3\right\} + 18\left(\frac{b}{a}\right)\left(\frac{c}{a}\right)\left(\frac{d}{a}\right) - 27\left(\frac{d}{a}\right)^2 = 0$$

$$\frac{b^2c^2}{a^4} - 4\left(\frac{b^3d}{a^4} + \frac{c^3}{a^3}\right) + \frac{18bcd}{a^3} - \frac{27d^2}{a^2} = 0$$

$$\therefore b^2c^2 - 4(b^3d + ac^3) + 18abcd - 27a^2d^2 = 0$$

ナル關係ヲ得ベシ。

例 次ノ三次方程式ガ二重根ヲ有スルトキハ。
 k ノ値如何。

$$x^3 + 3x^2 - 2x - \frac{k}{3} = 0$$

[解] 此場合ニ

$$p = 3, \quad q = -2, \quad r = -\frac{k}{3}$$

ヲ本定理ノ關係

$$p^2q^2 - 4(p^3r + q^3) + 18pqr - 27r^2 = 0$$

ニ置ケバ。

$$3^2(-2)^2 - 4\left\{3^3\left(-\frac{k}{3}\right) + (-2)^3\right\} + 18 \times 3(-2)\left(-\frac{k}{3}\right) - 27\left(-\frac{k}{3}\right)^2 = 0$$

$$36 - 4(-9k - 8) + 36k - 3k^2 = 0$$

$$3k^2 - 72k - 68 = 0$$

$$\therefore k = \frac{36 \pm \sqrt{36^2 + 3 \times 68}}{3}$$

$$= \frac{36 \pm 10\sqrt{15}}{3} \quad \text{答}$$

7. 一元三次方程式ノ三重根 一元三次方程式ノ三重根ニ關シテ次ノ定理アリ。

[定理] 一元三次方程式 $x^3 + px^2 + qx + r = 0$ ガ三重根ヲ有スルトキハ。

$$p^2=3q \text{ 及 } q^2=3pr$$

ナル關係アリ。

(證) 一元三次方程式 $x^3+px^2+qx+r=0$ が三重根 α を有スルトキハ。

$$\begin{aligned} x^3+px^2+qx+r &= (x-\alpha)^3 \\ &= x^3-3\alpha x^2+3\alpha^2x-\alpha^3 \end{aligned}$$

ナルベシ。而シテ兩邊ニ於ケル相當項ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} p &= -3\alpha \\ q &= 3\alpha^2 \\ r &= -\alpha^3 \end{aligned} \right\} \text{即チ} \left. \begin{aligned} \alpha &= -\frac{p}{3} \\ \alpha^2 &= \frac{q}{3} \\ \alpha^3 &= -r \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。依ツテ

$$\left. \begin{aligned} \left(-\frac{p}{3}\right)^2 &= \frac{q}{3} \\ \left(\frac{q}{3}\right)^2 &= \left(-\frac{p}{3}\right)(-r) \end{aligned} \right\}$$

即チ

$$\left. \begin{aligned} p^2 &= 3q \\ q^2 &= 3pr \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アルコトヲ知ル。

系(1) 一元三次方程式 $ax^3+bx^2+cx+d=0$ が三重根ヲ有スルトキハ。

$$b^2=3ac \text{ 及 } c^2=3bd$$

ナル關係アリ。

(證) 此方程式ヲ化シテ。

$$x^3+\frac{b}{a}x^2+\frac{c}{a}x+\frac{d}{a}=0$$

故ニ。本定理ノ關係ニ

$$p=\frac{b}{a}, \quad q=\frac{c}{a}, \quad r=\frac{d}{a}$$

ト置ケバ。

$$\left. \begin{aligned} \left(\frac{b}{a}\right)^2 &= 3\left(\frac{c}{a}\right) \\ \left(\frac{c}{a}\right)^2 &= 3\left(\frac{b}{a}\right)\left(\frac{d}{a}\right) \end{aligned} \right\}$$

即チ

$$\left. \begin{aligned} b^2 &= 3ac \\ c^2 &= 3bd \end{aligned} \right\}$$

ナル關係ヲ得ベシ。

系(2) 一元三次式 ax^3+bx^2+cx+d が完全立方式ナルトキハ。

$$b^2=3ac \text{ 及 } c^2=3bd$$

ナル關係アリ。

(證) 一元三次式 ax^3+bx^2+cx+d が完全立方式ナルトキハ。方程式 $ax^3+bx^2+cx+d=0$ ハ三重根ヲ有スベシ。故ニ本系ヲ得ルナリ。

[IV] 一元四次方程式ノ複根

8. 一元四次方程式ノ二重根 一元四次方程式ガ複根ヲ有スル場合ヲ區別スレバ。

- (i) 一ツノ二重根ヲ有スル場合。
- (ii) ニツノ二重根ヲ有スル場合。
- (iii) 三重根ヲ有スル場合。
- (iv) 四重根ヲ有スル場合。

ナル四通リナルベシ。而シテ二重根ニ關シテ次ノ二定理アリ。

[定理](I) 一元四次方程式 $x^4+px^3+qx^2+rx+s=0$ ガ一ツノ二重根ヲ有スルトキハ。

$$\begin{aligned} & \{(2pq-12r)(3r^2-8qs)-(2qr-12ps)(pr-16s)\} \\ & \quad \times \{(3p^2-8q)(2qr-12ps)-(pr-16s)(2pq-12r)\} \\ & = \{(pr-16s)^2-(3r^2-8qs)(3p^2-8q)\}^2 \end{aligned}$$

ナル關係アリ。

(證) 一元四次方程式 $x^4+px^3+qx^2+rx+s=0$ ガ一ツノ二重根 α ヲ有ストシ。

$$f(x)=x^4+px^3+qx^2+rx+s$$

トスレバ。

$$f'(x)=4x^3+3px^2+2qx+r$$

ナルベク。第24條定理ニヨリ α ハ二方程式

$$\left. \begin{aligned} x^4+px^3+qx^2+rx+s &= 0 \\ 4x^3+3px^2+2qx+r &= 0 \end{aligned} \right\}$$

ノ共通根ナルベシ。故ニ

$$\left. \begin{aligned} \alpha^4+p\alpha^3+q\alpha^2+r\alpha+s &= 0 \quad \dots (i) \\ 4\alpha^3+3p\alpha^2+2q\alpha+r &= 0 \quad \dots (ii) \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。此等ノ二關係ヨリ α ヲ消去スルコト次ノ如シ。

$$(i) \times 4 \quad 4\alpha^4+4p\alpha^3+4q\alpha^2+4r\alpha+4s=0$$

$$(ii) \times \alpha \quad 4\alpha^4+3p\alpha^3+2q\alpha^2+r\alpha=0$$

$$(i) \times 4 - (ii) \alpha$$

$$\therefore p\alpha^3+2q\alpha^2+3r\alpha+4s=0 \quad \dots \dots (iii)$$

次ニ。

$$(ii) \times p \quad 4p\alpha^3+3p^2\alpha^2+2pq\alpha+pr=0$$

$$(iii) \times 4 \quad 4p\alpha^3+8q\alpha^2+12r\alpha+16s=0$$

$$(ii) \times p - (iii) \times 4$$

$$(3p^2-8q)\alpha^2+(2pq-12r)\alpha+(pr-16s)=0 \quad \dots (iv)$$

又

$$(iii) \times r \quad pr\alpha^3+2qr\alpha^2+3r^2\alpha+4rs=0$$

$$(ii) \times 4s \quad 16s\alpha^3+12ps\alpha^2+8qs+4rs=0$$

(iii) $\times r -$ (ii) $\times 4s$

$$(pr - 16s)\alpha^3 + (2qr - 12ps)\alpha^2 + (3r^2 - 8qs)\alpha = 0$$

然ルニ $\alpha \neq 0$ ナルガ故ニ。

$$(pr - 16s)\alpha^2 + (2qr - 12ps)\alpha + (3r^2 - 8qs) = 0 \dots (v)$$

ヲ得ベシ。而シテ (iv), (v) ヲ α^2, α ニ關スル聯立方程式トシテ解ケバ。

$$\alpha^2 = \frac{(2pq - 12r)(3r^2 - 8qs) - (2qr - 12ps)(pr - 16s)}{(3p^2 - 8q)(2qr - 12ps) - (pr - 16s)(2pq - 12r)}$$

$$\alpha = \frac{(pr - 16s)^2 - (3r^2 - 8qs)(3p^2 - 8q)}{(3p^2 - 8q)(2qr - 12ps) - (pr - 16s)(2pq - 12r)}$$

ヲ得ベク。從ツテ

$$\frac{(2pq - 12r)(3r^2 - 8qs) - (2qr - 12ps)(pr - 16s)}{(3p^2 - 8q)(2qr - 12ps) - (pr - 16s)(2pq - 12r)}$$

$$= \left\{ \frac{(pr - 16s)^2 - (3r^2 - 8qs)(3p^2 - 8q)}{(3p^2 - 8q)(2qr - 12ps) - (pr - 16s)(2pq - 12r)} \right\}^2$$

$$\therefore \{(2pq - 12r)(3r^2 - 8qs) - (2qr - 12ps)(pr - 16s)\}$$

$$\times \{(3p^2 - 8q)(2qr - 12ps) - (pr - 16s)(2pq - 12r)\}$$

$$= \{(pr - 16s)^2 - (3r^2 - 8qs)(3p^2 - 8q)\}^2$$

ヲ得ベシ。

[定理](II) 一元四次方程式 $x^4 + px^3 + qx^2 + rx + s = 0$

ガニツノ二重根ヲ有スルトキハ。

$$p(4q - p^2) = 8r, \text{ 及 } p^2(4q - p^2)^2 = 64s$$

ナル關係アリ。

(證) 一元四次方程式 $x^4 + px^3 + qx^2 + rx + s = 0$ ガ二ツノ二重根 α, β ヲ有スルトキハ。

$$x^4 + px^3 + qx^2 + rx + s = (x - \alpha)^2(x - \beta)^2$$

$$= \{x^2 - (\alpha + \beta)x + \alpha\beta\}^2$$

而シテ

$$-(\alpha + \beta) = L, \quad \alpha\beta = M$$

ト置ケバ。

$$x^4 + px^3 + qx^2 + rx + s = (x^2 + Lx + M)^2$$

$$= x^4 + L^2x^2 + M^2 + 2Lx^3 + 2Mx^2 + 2LMx$$

$$= x^4 + 2Lx^3 + (L^2 + 2M)x^2 + 2LMx + M^2$$

ヲ得ベク。兩邊ニ於ケル x ノ相當項ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} p &= 2L & \dots & (i) \\ q &= L^2 + 2M & \dots & (ii) \\ r &= 2LM & \dots & (iii) \\ s &= M^2 & \dots & (iv) \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。此等ノ四關係ヨリ L, M ヲ消去スルニ。

$$(i) \text{ ヨリ。 } \quad L = \frac{p}{2}$$

從ツテ (ii) ヨリ。

$$2M = q - L^2 = q - \frac{p^2}{4}$$

$$\therefore M = \frac{1}{2} \left(q - \frac{p^2}{4} \right)$$

此等ノ L, M ヲ (iii) 及ビ (iv) ニ置ケバ。夫々

$$r = 2LM$$

$$= 2 \times \frac{p}{2} \times \frac{1}{2} \left(q - \frac{p^2}{4} \right)$$

$$\therefore 8r = p(4q - p^2)$$

$$s = M^2 = \frac{1}{4} \left(q - \frac{p^2}{4} \right)^2$$

$$= \frac{1}{64} (4q - p^2)^2$$

$$\therefore 64s = (4q - p^2)^2$$

ナルニ關係ヲ得ベシ。

系(1) 一元四次方程式 $ax^4 + bx^3 + cx^2 + dx + e = 0$ ガ

二ツノ二重根ヲ有スルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} 4abc - b^3 &= 8a^2d \\ (4ac - b^2)^2 &= 64a^3e \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) 此方程式ヲ化シテ。

$$x^4 + \frac{b}{a}x^3 + \frac{c}{a}x^2 + \frac{d}{a}x + \frac{e}{a} = 0$$

故ニ本定理ノ關係ニ。

$$p = \frac{b}{a}, \quad q = \frac{c}{a}, \quad r = \frac{d}{a}, \quad s = \frac{e}{a}$$

ト置ケバ。

$$\left. \begin{aligned} \left(\frac{b}{a} \right) \left\{ 4 \left(\frac{c}{a} \right) - \left(\frac{b}{a} \right)^2 \right\} &= 8 \left(\frac{d}{a} \right) \\ b \left\{ 4 \left(\frac{c}{a} \right) - \left(\frac{b}{a} \right)^2 \right\}^2 &= 64 \left(\frac{e}{a} \right) \end{aligned} \right\}$$

即チ

$$4abc - b^3 = 8a^2d$$

$$(4ac - b^2)^2 = 64a^3e$$

ナル關係ヲ得ベシ。

系(2) 一元四次式 $ax^4 + bx^3 + cx^2 + dx + e$ ガ完全平方式ナルトキハ。

$$4abc - b^3 = 8a^2d$$

$$(4ac - b^2)^2 = 64a^3e$$

ナル關係アリ。

(證) 一元四次式 $ax^4 + bx^3 + cx^2 + dx + e$ ガ完全平方式ナルトキハ。

$$ax^4 + bx^3 + cx^2 + dx + e = (Lx^2 + Mx + N)^2$$

從ツテ方程式

$$ax^4 + bx^3 + cx^2 + dx + e = 0$$

ハ化シテ。

$$(Lx^2 + Mx + N)^2 = 0$$

ナル形式トナスコトヲ得ベク。故ニニツノ二重根ヲ有スベシ。即チ本系ヲ得ルナリ。

例 次ノ方程式ガニツノ二重根ヲ有スルトキハ。A, Bノ値及ビ此等ノ根如何。

$$x^4 + 3x^3 + Ax^2 + Bx + \frac{1}{4} = 0$$

[解] 本定理ノ關係

$$\left. \begin{aligned} p(4q - p^2) &= 8r \\ (4q - p^2)^2 &= 64s \end{aligned} \right\}$$

ニ。p=3, q=A, r=B, s= $\frac{1}{4}$ ト置ケバ。夫々

$$3(4A - 9) = 8B \quad \dots \dots \dots (i)$$

$$(4A - 9)^2 = 64 \times \frac{1}{4} \quad \dots \dots \dots (ii)$$

ヲ得ベシ。而シテ(ii)ヨリ

$$4A - 9 = \pm\sqrt{16} = \pm 4$$

$$A = \frac{9 \pm 4}{4}$$

$$\therefore \left. \begin{aligned} A &= \frac{9+4}{4} = \frac{13}{4} \\ A &= \frac{9-4}{4} = \frac{5}{4} \end{aligned} \right\}$$

又 $A = \frac{13}{4}$ ヲ取レバ。(i)ヨリ

$$8B = 3(13 - 9) = 12 \quad \therefore B = \frac{3}{2}$$

$A = \frac{5}{4}$ ヲ取レバ。(i)ヨリ

$$8B = 3(5 - 9) = -12 \quad \therefore B = -\frac{3}{2}$$

故ニA, Bノ値トシテ。

$$\left. \begin{aligned} A &= \frac{13}{4} \\ B &= \frac{3}{2} \end{aligned} \right\} \quad \left. \begin{aligned} A &= \frac{5}{4} \\ B &= -\frac{3}{2} \end{aligned} \right\}$$

ナル二組ヲ得ベシ。

次ニ $A = \frac{13}{4}, B = \frac{3}{2}$ ヲ取レバ初メノ方程式ハ

$$x^4 + 3x^3 + \frac{13}{4}x^2 + \frac{3}{2}x + \frac{1}{4} = 0$$

$$\left(x^2 + \frac{3}{2}x + \frac{1}{2}\right)^2 = 0$$

$$(2x^2 + 3x + 1)^2 = 0$$

$$(x+1)^2(2x+1)^2 = 0$$

$$\therefore x = -1, -1, -\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}$$

ナリ。又 $A = \frac{5}{4}, B = -\frac{3}{2}$ ヲ取レバ。初メノ方程式ハ

$$x^4 + 3x^3 + \frac{5}{4}x^2 - \frac{3}{2}x + \frac{1}{4} = 0$$

$$\left(x^2 + \frac{3}{2}x - \frac{1}{2}\right)^2 = 0$$

$$(2x^2 + 3x - 1)^2 = 0$$

$$2x^2 + 3x - 1 = 0 \quad x = \frac{-3 \pm \sqrt{17}}{4}$$

$$2x^2 + 3x - 1 = 0 \quad x = \frac{-3 \pm \sqrt{17}}{4}$$

$$\therefore x = \frac{-3 + \sqrt{17}}{4}, \frac{-3 + \sqrt{17}}{4}, \frac{-3 - \sqrt{17}}{4}, \frac{-3 - \sqrt{17}}{4}$$

ナリ。

9. 一元四次方程式ノ三重根 一元四次方程式ノ三重根ニ關シテ。次ノ定理アリ。

[定理] 一元四次方程式 $x^4 + px^3 + qx^2 + rx + s = 0$ ガ三重根ヲ有スルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} 2(9pq - 4q^2)^2 &= 9(pq - 6r)(pq^2 + 2qr - 3p^2) \\ 3(6ps - qr)^2 &= (pr - 16s)(pqr + 8qs - 9p^2s) \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) 一元四次方程式 $x^4 + px^3 + qx^2 + rx + s = 0$ ガ三重根 α ヲ有スルトキハ。

$$\begin{aligned} x^4 + px^3 + qx^2 + rx + s &= (x - \alpha)^3(x - \beta) \\ &= x^4 - (3\alpha + \beta)x^3 + 3(\alpha^2 + \alpha\beta)x^2 - (\alpha^3 + 3\alpha^2\beta)x + \alpha^3\beta \end{aligned}$$

ナルベシ。但シ β ハ此四次方程式ノ殘ル一ノ根ヲ

表ハスモノトス。而シテ兩邊ニ於ケル相當項ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} p &= -(3\alpha + \beta) \\ q &= 3(\alpha^2 + \alpha\beta) \\ r &= -(\alpha^3 + 3\alpha^2\beta) \\ s &= \alpha^3\beta \end{aligned} \right\} \text{即チ} \left. \begin{aligned} 3\alpha + \beta &= -p \quad \dots \text{(i)} \\ \alpha^2 + \alpha\beta &= \frac{q}{3} \quad \dots \text{(ii)} \\ \alpha^3 + 3\alpha^2\beta &= -r \quad \dots \text{(iii)} \\ \alpha^3\beta &= s \quad \dots \text{(iv)} \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。

次ニ。此等ノ四關係ヨリ α, β ヲ消去スルニ。(i)ヨリ。

$$\beta = -(3\alpha + p) \quad \dots \dots \dots \text{(v)}$$

之レヲ (ii)ニ代用スレバ。

$$\alpha^2 - \alpha(3\alpha + p) = \frac{q}{3}$$

$$-2\alpha^2 - p\alpha = \frac{q}{3}$$

$$\therefore 6\alpha^2 + 3p\alpha + q = 0 \quad \dots \dots \text{(vi)}$$

又 (v)ヨリ (iii)ニ代用スレバ。

$$\alpha^3 - 3\alpha^2(3\alpha + p) = -r$$

$$-8\alpha^3 - 3p\alpha^2 + r = 0$$

$$\therefore 8\alpha^3 + 3p\alpha^2 - r = 0 \quad \dots \dots \text{(vii)}$$

尙又。(v)ヨリ (iv)ニ代用スレバ。

$$-a^3(3a+p)=s$$

$$\therefore 3a^4+pa^3+s=0 \quad \dots \dots \text{(viii)}$$

ヲ得ベシ。次 = (vi), (vii), (viii) ヨリ α ヲ消去スルニ。 $(vii) \times q + (vi) \times r$ ヲ作レバ。

$$8qa^3+3pqa^2-qr+(6ra^2+3pra+qr)=0$$

$$8qa^3+(3pq+6r)a^2+3pra=0$$

$\alpha \neq 0$ ナルヲ以ツテ。

$$\therefore 8qa^2+(3pq+6r)a+3pr=0 \quad \dots \text{(ix)}$$

ヲ得ベク。又 $(viii) \times r + (vii) \times s$ ヲ作レバ。

$$3ra^4+pra^3+rs+(8sa^3+3psa^2-rs)=0$$

$$3ra^4+(pr+8s)a^3+3psa^2=0$$

$$\therefore 3ra^2+(pr+8s)a+3ps=0 \quad \dots \text{(x)}$$

ヲ得ベシ。而シテ (vi), (ix) ヨリ α ヲ消去スレバ。

容易 =

$$\left\{ \frac{9pq-4q^2}{3(pq-6r)} \right\}^2 = \frac{pq^2+2qr-3p^2}{2(pq-6r)}$$

$$\therefore 2(9pq-4q^2)^2=9(pq-6r)(pq^2+2qr-3p^2)$$

ヲ得ベシ。又 (vi), (x) ヨリ α ヲ消去スレバ。

$$\left\{ \frac{6ps-qr}{pr-16s} \right\}^2 = \frac{pqr+8qs-9p^2s}{3(pr-16s)}$$

$$\therefore 3(6ps-qr)^2=(pr-16s)(pqr+8qs-9p^2s)$$

ナル關係ヲ得ベシ。

或ハ又此定理ハ。第24條定理ニヨリ次ノ如ク證明スルコトヲ得ベシ。今

$$f(x)=x^4+px^3+qx^2+rx+s$$

トスレバ。

$$f'(x)=4x^3+3px^2+2qx+r$$

$$f''(x)=12x^2+6px+2q$$

故ニ。四次方程式 $x^4+px^3+qx^2+rx+s=0$ ガ三重根 α ヲ有スルトキハ。 α ハ三方程式

$$\left. \begin{aligned} x^4+px^3+qx^2+rx+s &= 0 \\ 4x^3+3px^2+2qx+r &= 0 \\ 12x^2+6px+2q &= 0 \end{aligned} \right\}$$

ノ共通根ナルベシ。依ツテ

$$\left. \begin{aligned} \alpha^4+p\alpha^3+q\alpha^2+r\alpha+s &= 0 \\ 4\alpha^3+3p\alpha^2+2q\alpha+r &= 0 \\ 12\alpha^2+6p\alpha+2q &= 0 \end{aligned} \right\}$$

ヨリ α ヲ消去スレバ。容易ニ本定理ノニ關係ヲ得ラルベシ。

10. 一元四次方程式ノ四重根。一元四次方程式ノ四重根ニ關シテ次ノ定理アリ。

[定理] 一元四次方程式 $x^4+px^3+qx^2+rx+s=0$ が
四重根ヲ有スルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} 3p^2 &= 8q \\ p^3 &= 16r \\ p^4 &= 256s \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) 一元四次方程式 $x^4+px^3+qx^2+rx+s=0$ が
四重根 α ヲ有スルトキハ。

$$\begin{aligned} x^4+px^3+qx^2+rx+s &= (x-\alpha)^4 \\ &= x^4-4\alpha x^3+6\alpha^2 x^2-4\alpha^3 x+\alpha^4 \end{aligned}$$

ナルベシ。故ニ兩邊ニ於ケル相當項ノ係數ヲ比
較シテ。

$$\left. \begin{aligned} p &= -4\alpha & \dots & \text{(i)} \\ q &= 6\alpha^2 & \dots & \text{(ii)} \\ r &= -4\alpha^3 & \dots & \text{(iii)} \\ s &= \alpha^4 & \dots & \text{(iv)} \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。而シテ (i) ヨリ

$$\alpha = -\frac{p}{4}$$

之レヲ (ii), (iii), (iv) ニ代用スレバ。

$$\left. \begin{aligned} q &= 6\left(-\frac{p}{4}\right)^2 & \therefore & 8q = 3p^2 \\ r &= -4\left(-\frac{p}{4}\right)^3 & \therefore & 16r = p^3 \\ s &= \left(-\frac{p}{4}\right)^4 & \therefore & 256s = p^4 \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。

系 一元四次式 $ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ が完全四乘
式ナルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} 3b^2 &= 8ac \\ b^3 &= 16a^2d \\ b^4 &= 256a^3e \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) 一元四次式 $ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ が完全四乘
式ナルトキハ。方程式 $ax^4+bx^3+cx^2+dx+e=0$ ハ四
乗根ヲ有スベシ。而シテ此方程式ヲ化シテ

$$x^4+\frac{b}{a}x^3+\frac{c}{a}x^2+\frac{d}{a}x+\frac{e}{a}=0$$

故ニ本定理ノ關係ニ。

$$p = \frac{b}{a}, \quad q = \frac{c}{a}, \quad r = \frac{d}{a}, \quad s = \frac{e}{a}$$

ト置ケバ。

[定理] 一元四次方程式 $x^4+px^3+qx^2+rx+s=0$ が四重根ヲ有スルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} 3p^2 &= 8q \\ p^3 &= 16r \\ p^4 &= 256s \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) 一元四次方程式 $x^4+px^3+qx^2+rx+s=0$ が四重根 α ヲ有スルトキハ。

$$\begin{aligned} x^4+px^3+qx^2+rx+s &= (x-\alpha)^4 \\ &= x^4-4\alpha x^3+6\alpha^2 x^2-4\alpha^3 x+\alpha^4 \end{aligned}$$

ナルベシ。故ニ兩邊ニ於ケル相當項ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{aligned} p &= -4\alpha \quad \dots (i) \\ q &= 6\alpha^2 \quad \dots (ii) \\ r &= -4\alpha^3 \quad \dots (iii) \\ s &= \alpha^4 \quad \dots (iv) \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。而シテ (i) ヨリ

$$\alpha = -\frac{p}{4}$$

之レヲ (ii), (iii), (iv) ニ代用スレバ。

$$\left. \begin{aligned} q &= 6\left(-\frac{p}{4}\right)^2 & \therefore 8q &= 3p^2 \\ r &= -4\left(-\frac{p}{4}\right)^3 & \therefore 16r &= p^3 \\ s &= \left(-\frac{p}{4}\right)^4 & \therefore 256s &= p^4 \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。

系 一元四次式 $ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ が完全四乗式ナルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} 3b^2 &= 8ac \\ b^3 &= 16a^2d \\ b^4 &= 256a^3e \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) 一元四次式 $ax^4+bx^3+cx^2+dx+e$ が完全四乗式ナルトキハ。方程式 $ax^4+bx^3+cx^2+dx+e=0$ ハ四乗根ヲ有スベシ。而シテ此方程式ヲ化シテ

$$x^4+\frac{b}{a}x^3+\frac{c}{a}x^2+\frac{d}{a}x+\frac{e}{a}=0$$

故ニ本定理ノ關係ニ。

$$p=\frac{b}{a}, \quad q=\frac{c}{a}, \quad r=\frac{d}{a}, \quad s=\frac{e}{a}$$

ト置ケバ。

$$\left. \begin{aligned} 3\left(\frac{b}{a}\right)^2 &= 8\left(\frac{c}{a}\right) \\ \left(\frac{b}{a}\right)^3 &= 16\left(\frac{d}{a}\right) \\ \left(\frac{b}{a}\right)^4 &= 256\left(\frac{e}{a}\right) \end{aligned} \right\}$$

即チ

$$\left. \begin{aligned} 3b^2 &= 8ac \\ b^3 &= 16a^2d \\ b^4 &= 256a^3e \end{aligned} \right\}$$

ナル關係ヲ得ベシ。

例 次ノ一元四次式ガ完全四乗式ナルトキハ。

A, B, Cノ値如何。

$$x^4 - 2x^3 + 3Ax^2 - 4Bx + 5C$$

[解] 本定理ノ關係

$$\left. \begin{aligned} 3p^2 &= 8q \\ p^3 &= 16r \\ p^4 &= 256s \end{aligned} \right\}$$

ニ。 $p = -2, q = 3A, r = -4B, s = 5C$ ト置ケバ。

$$\left. \begin{aligned} 3(-2)^2 &= 8 \times 3A \\ (-2)^3 &= 16(-4B) \\ (-2)^4 &= 256 \times 5C \end{aligned} \right\} \text{即チ} \left. \begin{aligned} A &= \frac{1}{2} \\ B &= \frac{1}{8} \\ C &= \frac{1}{80} \end{aligned} \right\} \text{答}$$

ヲ得ベシ。

[V] ニツノ一元方程式ノ 共通根

11. ニツノ一元二次方程式ノ共通根。ニツノ一元二次方程式ガ共通根ヲ有スル場合ニ關シテ。次ノ定理アリ。

[定理](I) ニツノ一元二次方程式

$$ax^2 + bx + c = 0 \quad \text{及} \quad b'x^2 + b'x + c' = 0$$

ガ共通ナル一ノ根ヲ有スルトキハ。

$$(ca' - c'a)^2 = (ab' - a'b)(bc' - b'c)$$

ナル關係アリ。

(證) ニツノ一元二次方程式

$$ax^2 + bx + c = 0 \quad \text{及} \quad a'x^2 + b'x + c' = 0$$

ガ共通ナル唯一ノ根 α ヲ有スルコトハ。ニツノ一元二次式

$$ax^2 + bx + c \quad \text{及} \quad a'x^2 + b'x + c'$$

ガ一次ノ通因數 $(x - \alpha)$ ヲ有スルコトナリ。而シテ

$$P = ax^2 + bx + c$$

$$Q = a'x^2 + b'x + c'$$

トスレバ、 $x-\alpha$ ハ

$$\begin{aligned} a'P-aQ &= aa'x^2+a'bx+ca'-(aa'x^2+ab'x+c'a) \\ &= (a'b-ab')x-(c'a-ca') \\ &= (a'b-ab')\left\{x-\frac{c'a-ca'}{a'b-ab'}\right\} \\ &= (a'b-ab')\left\{x-\frac{ca'-c'a}{ab'-a'b}\right\} \end{aligned}$$

ノ因數ナルベシ。但シ $ab'-a'b \neq 0$ {定理(II)参照}

故ニ

$$\begin{aligned} x-\alpha &= x-\frac{ca'-c'a}{ab'-a'b} \\ \therefore \alpha &= \frac{ca'-c'a}{ab'-a'b} \dots \dots \dots (i) \end{aligned}$$

又 $x-\alpha$ ハ

$$\begin{aligned} c'P-cQ &= c'a^2x^2+bc'x+cc'-(ca'x^2+b'cx+cc') \\ &= (c'a-ca')x^2-(b'c-bc')x \\ &= (c'a-ca')x\left\{x-\frac{b'c-bc'}{c'a-ca'}\right\} \\ &= (c'a-ca')x\left\{x-\frac{bc'-b'c}{ca'-c'a}\right\} \end{aligned}$$

ノ因數ナルベシ。但シ $ca'-c'a \neq 0$ {定理(II)参照}

故ニ

$$\begin{aligned} x-\alpha &= x-\frac{bc'-b'c}{ca'-c'a} \\ \therefore \alpha &= \frac{bc'-b'c}{ca'-c'a} \dots \dots \dots (ii) \end{aligned}$$

ヲ得ベク。(i)及ビ(ii)ヲ比較シテ

$$\begin{aligned} \frac{ca'-c'a}{ab'-a'b} &= \frac{bc'-b'c}{ca'-c'a} \\ \therefore (ca'-c'a)^2 &= (ab'-a'b)(bc'-b'c) \end{aligned}$$

ヲ得ベシ。

例 ニツノ方程式

$$x^2+ax+bc=0$$

$$x^2+bx+ca=0$$

ガ共通ナル一ノ根ヲ有スルトキハ。其他ノ二根ハ方程式 $x^2+cx+ab=0$ ノ根ナルコトヲ證明セヨ。

[解] ニツノ方程式

$$x^2+ax+bc=0 \dots \dots \dots (i)$$

$$x^2+bx+ca=0 \dots \dots \dots (ii)$$

ガ共通ナル一ノ根ヲ有スルトキハ。本定理ニヨリ

$$(bc \times 1 - ca \times 1)^2 = (1 \times b - 1 \times a)(a \times ca - b \times bc)$$

$$c^2(b-a)^2 = (b-a)c(a^2-b^2)$$

$$c^2(b-a)^2 + c(b-a)^2(b+a) = 0$$

$$c^2(b-a)^2(c+b+a) = 0$$

$$\text{然ルニ。} \quad c(b-a)^2(c+b+a)=0$$

$$c \neq 0, b \neq a$$

$$\therefore a+b+c=0$$

故ニ(i)ハ

$$x^2 - (b+c)x + bc = 0$$

$$(x-b)(x-c)=0 \quad \therefore \left. \begin{array}{l} x=b \\ x=c \end{array} \right\}$$

(ii)ハ

$$x^2 - (c+a)x + ca = 0$$

$$(x-c)(x-a)=0 \quad \therefore \left. \begin{array}{l} x=c \\ x=a \end{array} \right\}$$

且ツ方程式

$$x^2 + cx + ab = 0 \quad \dots \dots \dots \text{(iii)}$$

ハ化シテ。

$$x^2 - (a+b)x + ab = 0$$

$$(x-a)(x-b)=0 \quad \therefore \left. \begin{array}{l} x=a \\ x=b \end{array} \right\}$$

即チ(i), (ii)ニ共通ナラザルニ根 $x=a, x=b$ ハ方程式(iii)ノ根ナルコトヲ知ル。

[定理](II) ニツノ一元二次方程式

$$ax^2 + bx + c = 0 \quad \text{及ビ} \quad a'x^2 + b'x + c' = 0$$

ガ共通ナルニ根ヲ有スルトキハ。

$$\left. \begin{array}{l} ab' - a'b = 0 \\ ca' - c'a = 0 \end{array} \right\}$$

即チ

$$\frac{a}{a'} = \frac{b}{b'} = \frac{c}{c'}$$

ナリ。

(證) 此ノ二方程式ヲ化スレバ。夫々

$$\left. \begin{array}{l} x^2 + \frac{b}{a}x + \frac{c}{a} = 0 \\ x^2 + \frac{b'}{a'}x + \frac{c'}{a'} = 0 \end{array} \right\}$$

然ルニ此等ガ共通ニ根ヲ有スルヲ以ツテ。全一方程式ナルベク。相當項ノ係數ヲ比較シテ。

$$\left. \begin{array}{l} \frac{b}{a} = \frac{b'}{a'} \\ \frac{c}{a} = \frac{c'}{a'} \end{array} \right\} \quad \text{即チ} \quad \left. \begin{array}{l} ab' = a'b \\ ca' = c'a \end{array} \right\}$$

ヲ得ベシ。故ニ

$$\left. \begin{array}{l} ab' - a'b = 0 \\ ca' - c'a = 0 \end{array} \right\}$$

即チ

$$\frac{a}{a'} = \frac{b}{b'} = \frac{c}{c'}$$

ナリ。

12. 一元三次方程式ト一元二次方程式トノ
共通根。一元三次方程式ト一元二次方程式トガ
共通根ヲ有スル場合ニ關シテ。次ノ定理アリ。

[定理](I) 一元三次方程式 $x^3+px^2+qx+r=0$ ト
一元二次方程式 $x^2+p'x+q'=0$ トガ共通ナル一
根ヲ有スルトキハ。

$$(r-pq'+p'q')^2=(pp'-p'^2-q+q')(qq'-q'^2-p'r)$$

ナル關係アリ。

(證) ニツノ方程式

$$x^3+px^2+qx+r=0 \dots \dots \dots (i)$$

$$x^2+p'x+q'=0 \dots \dots \dots (ii)$$

ガ共通ナル唯一根 α ヲ有スルコトハ。二式

$$x^3+px^2+qx+r$$

$$x^2+p'x+q'$$

ガ一次ノ通因數 $(x-\alpha)$ ヲ有スルコトナリ。而シテ

$$P=x^3+px^2+qx+r$$

$$Q=x^2+p'x+q'$$

トスレバ。 $(x-\alpha)$ ハ

$$P-xQ=x^3+px^2+qx+r-(x^3+p'x^2+q'x)$$

$$=(p-p')x^2+(q-q')x+r$$

ノ因數ナルベシ。即チニツノ一元二次式

$$(p-p')x^2+(q-q')x+r \quad \text{及} \quad x^2+p'x+q'$$

ガ一次ノ通因數 $(x-\alpha)$ ヲ有スルコト、ナルベシ。

故ニ前條ノ定理ニヨリ

$$\{r \times 1 - q'(p-p')\}^2 = \{(p-p')p' - 1 \times (q-q')\} \{(q-q')q' - p'r\}$$

$$\therefore (r-pq'+p'q')^2 = (pp' - p'^2 - q + q')(qq' - q'^2 - p'r)$$

ヲ得ベシ。

系 一元三次方程式 $ax^3+bx^2+cx+d=0$ ト一元二
次方程式 $a'x^2+b'x+c'=0$ トガ共通ナル一
根ヲ有ス
ルトキハ。

$$(a'^2d - a'bc' + ab'c')^2$$

$$= (a'bb' - ab'^2 - a'^2c + aa'c)(a'cc' - ac'^2 - a'b'd)$$

ナル關係アリ。

(證) 此等ノ方程式ヲ化シテ。夫々

$$x^3 + \frac{b}{a}x^2 + \frac{c}{a}x + \frac{d}{a} = 0$$

$$x^2 + \frac{b'}{a'}x + \frac{c'}{a'} = 0$$

故ニ本定理ノ關係ニ。

$$p = \frac{b}{a}, \quad q = \frac{c}{a}, \quad r = \frac{d}{a}$$

$$p' = \frac{b'}{a'}, \quad q' = \frac{c'}{a'}$$

ト置ケバ。

$$\begin{aligned} & \left\{ \frac{d}{a} - \left(\frac{b}{a} \right) \left(\frac{c'}{a'} \right) + \left(\frac{b'}{a'} \right) \left(\frac{c'}{a'} \right) \right\}^2 \\ &= \left\{ \left(\frac{b}{a} \right) \left(\frac{b'}{a'} \right) - \left(\frac{b'}{a'} \right)^2 - \frac{c}{a} + \frac{c'}{a'} \right\} \\ & \quad \times \left\{ \left(\frac{c}{a} \right) \left(\frac{c'}{a'} \right) - \left(\frac{c'}{a'} \right)^2 - \left(\frac{b'}{a'} \right) \left(\frac{d}{a} \right) \right\} \end{aligned}$$

$a^2 a'^4$ ヲ乘ジテ分母ヲ拂ヘバ。

$$\begin{aligned} & (a^2 d - a' b c' + a b' c')^2 \\ &= (a' b b' - a b'^2 - a'^2 c + a a' c')(a' c c' - a c'^2 - a' b' d) \end{aligned}$$

ヲ得ベシ。

例 ニツノ方程式

$$l x^3 - m x + n = 0 \quad \text{及} \quad k x^2 - m x + n = 0$$

ガ共通ナル一ノ根ヲ有スルトキハ。

$$k^3 + l^2 n = k l m$$

ナルコトヲ證明セヨ。

[解] 此等ノ方程式ヲ化シテ。

$$l x^3 + 0 x^2 + (-m)x + n = 0$$

$$k x^2 + (-m)x + n = 0$$

故ニ本系ノ關係ニ。

$$a = l, \quad b = 0, \quad c = -m, \quad d = n$$

$$a' = k, \quad b' = -m, \quad c' = n$$

ト置ケバ。

$$\begin{aligned} & \{ k^2 n - k \times 0 \times n + l(-m)n \}^2 \\ &= \{ k \times 0 \times (-m) - l(-m)^2 - k^2(-m) + lkn \} \\ & \quad \times \{ k(-m)n - l n^2 - k(-m)n \} \\ & n^2(k^2 - lm)^2 = (-lm^2 + k^2 m + lkn)(-ln^2) \\ & (k^2 - lm)^2 = l^2 m^2 - k^2 lm - k l^2 n \\ & k^4 - 2k^2 lm = -k^2 lm - k l^2 n \\ & k^4 + k l^2 n = k^2 lm \\ & \therefore k^3 + l^2 n = k l m \end{aligned}$$

[定理](II) 一元三次方程式 $x^3 + p x^2 + q x + r = 0$ ト一元二次方程式 $x^2 + p' x + q' = 0$ トガ共通ナル二根ヲ有スルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} (p-p')p' &= q-q' \\ (p-p')q' &= r \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) ニツノ方程式

$$x^3 + p x^2 + q x + r = 0$$

$$x^2 + p' x + q' = 0$$

ガ共通ナル二根ヲ有スルコトハ。 x^3+px^2+qx+r ガ $x^2+p'x+q'$ ナル因数ヲ有スルコトナリ。故ニ

$$\begin{aligned} x^3+px^2+qx+r &= (x+L)(x^2+p'x+q') \\ &= x^3+(L+p')x^2+(Lp'+q')x+Lq' \end{aligned}$$

トシ。兩邊ニ於ケル相當項ヲ比較シテ

$$\left. \begin{aligned} L+p' &= p \quad \dots (i) \\ Lp'+q' &= q \quad \dots (ii) \\ Lq' &= r \quad \dots (iii) \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。而シテ (i) ヨリ

$$L = p - p'$$

之レヲ (ii) 及ビ (iii) ニ代用スレバ。

$$\left. \begin{aligned} (p-p')p' &= q - q' \\ (p-p')q' &= r \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。

系 一元三次方程式 $ax^3+bx^2+cx+d=0$ ト一元二次方程式 $a'x^2+b'x+c'=0$ トガ共通ナル二根ヲ有スルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} (a'b-ab')b' &= (ca'-c'a)a' \\ (a'b-ab')c' &= a'^2d \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) 此等ノ方程式ヲ化シテ。

$$x^3 + \frac{b}{a}x^2 + \frac{c}{a}x + \frac{d}{a} = 0$$

$$x^2 + \frac{b'}{a'}x + \frac{c'}{a'} = 0$$

故ニ本定理ノ關係ニ。

$$p = \frac{b}{a}, \quad q = \frac{c}{a}, \quad r = \frac{d}{a}$$

$$p' = \frac{b'}{a'}, \quad q' = \frac{c'}{a'}$$

ト置ケバ。

$$\left. \begin{aligned} \left(\frac{b}{a} - \frac{b'}{a'}\right)\left(\frac{b'}{a'}\right) &= \frac{c}{a} - \frac{c'}{a'} \\ \left(\frac{b}{a} - \frac{b'}{a'}\right)\left(\frac{c'}{a'}\right) &= \frac{d}{a} \end{aligned} \right\}$$

即チ

$$\left. \begin{aligned} (a'b - ab')b' &= (ca' - c'a)a' \\ (a'b - ab')c' &= a'^2d \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。

例 一元三次式 x^3+8x^2+5x-P ガ一元二次式 x^2+3x-Q ニテ整除シ得ラル、トキハ。P 及ビ Q ノ値如何。

[解] x^3+8x^2+5x-P ガ x^2+3x-Q ニテ整除シ得ラル、コトハ。二方程式

$$\left. \begin{aligned} x^3 + 8x^2 + 5x - P = 0 \\ x^2 + 3x - Q = 0 \end{aligned} \right\}$$

が共通ナル二根ヲ有スルコトナリ。故ニ本定理ノ關係ニ。

$$\begin{aligned} p=8, \quad q=5, \quad r=-P \\ p'=3, \quad q'=-Q \end{aligned}$$

ト置ケバ。

$$\begin{aligned} (8-3) \times 3 &= 5 - (-Q) \quad \dots \dots \dots (i) \\ (8-3) \times (-Q) &= (-P) \quad \dots \dots \dots (ii) \end{aligned}$$

ヲ得ベク。(i)ヨリ

$$15 = 5 + Q \quad \therefore Q = 10$$

之レヲ(ii)ニ置ケバ。

$$P = (8-3) \times 10 = 50$$

ヲ得ベシ。

13. ニツノ一元三次方程式ノ共通根。

ニツノ一元三次方程式ガ共通根ヲ有スル場合ニ關シテ次ノ定理アリ。

[定理](I) ニツノ一元三次方程式

$$\begin{aligned} x^3 + px^2 + qx + r = 0 \\ x^3 + p'x^2 + q'x + r' = 0 \end{aligned}$$

ガ共通ナル二根ヲ有スルトキハ。

$$\begin{aligned} & \{(r-r')^2 + (p-p')(q'q-r'r)\} \\ & = \{(p-p')(p'r'-p'r) + (q-q')(r-r')\} \\ & \quad \times \{(q-q')(q'r'-q'r) - (p'r'-p'r)(r-r')\} \end{aligned}$$

ナル關係アリ。

(證) ニツノ一元三次方程式

$$\begin{aligned} x^3 + px^2 + qx + r = 0 \\ x^3 + p'x^2 + q'x + r' = 0 \end{aligned}$$

ガ共通ナル二根 α ヲ有スルコトハ。二式

$$\begin{aligned} \alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r \\ \alpha^3 + p'\alpha^2 + q'\alpha + r' \end{aligned}$$

ガ一次ノ通因數 $(x-\alpha)$ ヲ有スルコトナリ。而シテ

$$\begin{aligned} P &= x^3 + px^2 + qx + r \\ Q &= x^3 + p'x^2 + q'x + r' \end{aligned}$$

トスレバ。(x- α)ハ

$$P - Q = (p-p')x^2 + (q-q')x + (r-r') \quad \dots (i)$$

ノ因數ナルベク。又 $(x-\alpha)$ ハ

$$\begin{aligned} r'P - rQ &= r'(x^3 + px^2 + qx + r) - r(x^3 + p'x^2 + q'x + r') \\ &= (r'-r)x^3 + (p'r'-p'r)x^2 + (q'r'-q'r)x \\ &= x\{(r'-r)x^2 + (p'r'-p'r)x + (q'r'-q'r)\} \end{aligned}$$

ノ因數ナルベシ。而シテ x ハ P 及ビ Q ノ因數ナ
ラザルコト明ラカナルヲ以ツテ。 $(x-\alpha)$ ハ

$$(r'-r)x^2 + (pr' - p'r)x + (qr' - q'r) \quad \dots (ii)$$

ノ因數ナルベク。(i) 及ビ (ii) ハ $(x-\alpha)$ ナル通因數
ヲ有スルコト、ナルガ。故ニ附録第11條定理(I)

ニヨリ

$$\begin{aligned} & \{(r-r')(r'-r) - (qr' - q'r)(p-p')\}^2 \\ &= \{(p-p')(pr' - p'r) - (r'-r)(q-q')\} \\ & \quad \times \{(q-q')(qr' - q'r) - (pr' - p'r)(r-r')\} \end{aligned}$$

即チ

$$\begin{aligned} & \{(r-r')^2 + (p-p')(qr' - q'r)\}^2 \\ &= \{(p-p')(pr' - p'r) + (q-q')(r-r')\} \\ & \quad \times \{(q-q')(qr' - q'r) - (pr' - p'r)(r-r')\} \end{aligned}$$

ヲ得ベシ。

系 ニツノ一元三次方程式

$$ax^3 + bx^2 + cx + d = 0$$

$$a'x^3 + b'x^2 + c'x + d' = 0$$

ガ共通ナル一ノ根ヲ有スルトキハ。

$$\begin{aligned} & \{(a'd - ad')^2 + (a'b - ab')(cd' - c'd)\}^2 \\ &= \{(a'b - ab')(bd' - b'd) + (a'c - ac')(a'd - ad')\} \end{aligned}$$

$$\times \{(a'c - ac')(cd' - c'd) - (bd' - b'd)(a'd - ad')\}$$

ナル關係アリ。

(證) 此等ノ方程式ヲ化シテ。夫々。

$$x^3 + \frac{b}{a}x^2 + \frac{c}{a}x + \frac{d}{a} = 0$$

$$x^3 + \frac{b'}{a'}x^2 + \frac{c'}{a'}x + \frac{d'}{a'} = 0$$

故ニ本定理ノ關係ニ。

$$p = \frac{b}{a}, \quad q = \frac{c}{a}, \quad r = \frac{d}{a}$$

$$p' = \frac{b'}{a'}, \quad q' = \frac{c'}{a'}, \quad r' = \frac{d'}{a'}$$

ト置ケバ。

$$\left\{ \left(\frac{d}{a} - \frac{d'}{a'} \right)^2 + \left(\frac{b}{a} - \frac{b'}{a'} \right) \left(\frac{c}{a} \times \frac{d'}{a'} - \frac{c'}{a'} \times \frac{d}{a} \right) \right\}^2$$

$$= \left\{ \left(\frac{b}{a} - \frac{b'}{a'} \right) \left(\frac{b}{a} \times \frac{d'}{a'} - \frac{b'}{a'} \times \frac{d}{a} \right) + \left(\frac{c}{a} - \frac{c'}{a'} \right) \left(\frac{d}{a} - \frac{d'}{a'} \right) \right\}$$

$$\times \left\{ \left(\frac{c}{a} - \frac{c'}{a'} \right) \left(\frac{c}{a} \times \frac{d'}{a'} - \frac{c'}{a'} \times \frac{d}{a} \right) \right.$$

$$\left. - \left(\frac{b}{a} \times \frac{d'}{a'} - \frac{b'}{a'} \times \frac{d}{a} \right) \left(\frac{d}{a} - \frac{d'}{a'} \right) \right\}$$

即チ

$$\{(a'd - ad')^2 + (a'b - ab')(cd' - c'd)\}^2 =$$

$$\{(a'b-ab')(bd'-b'd)+(a'c-ac')(a'd-ad')\} \\ \times \{(a'c-ac')(cd'-c'd)-(bd'-b'd)(a'd-ad')\}$$

ヲ得ベシ。

例 ニツノ方程式

$$x^3+mx^2+nx+1=0$$

$$x^3+nx^2+mx+1=0$$

ガ共通ナル一ノ根ヲ有スルトキハ。

$$m+n=-2$$

ナルコトヲ證明セヨ。但シ $m \neq n$ トス。

[解] 此等ノ二方程式ガ共通ナル一ノ根 α ヲ有スルコトハ。二式

$$P=x^3+mx^2+nx+1$$

$$Q=x^3+nx^2+mx+1$$

ガ一次ノ通因数 $(x-\alpha)$ ヲ有スルコトナリ。故ニ $(x-\alpha)$ ハ

$$P-Q=(m-n)x^2+(n-m)x$$

$$=(m-n)x(x-1)$$

ノ因数ナルベシ。然ルニ x ハ P 及ビ Q ノ因数ナラザルコト明ラカナルヲ以ツテ。

$$\therefore x-\alpha=x-1$$

$$\alpha=1$$

ナルコトヲ知リ得ベシ。此故ニ $x=1$ ハ初メノ二方程式ノ共通根ニシテ此等ノ方程式ニ適合スベシ。即チ

$$1^3+m \times 1^2+n \times 1+1=0$$

$$1^3+n \times 1^2+m \times 1+1=0$$

何レニシテモ $m+n=-2$ ナリ。

[定理](II) ニツノ一元三次方程式

$$x^3+px^2+qx+r=0$$

$$x^3+p'x^2+q'x+r'=0$$

ガ共通ナル二根ヲ有スルトキハ。

$$(q-q')(r-r')=(p-p')(p'r-pr')$$

$$(r-r')^2=(p-p')(q'r-qr')$$

ナル關係アリ。

(證) ニツノ一元三次方程式

$$x^3+px^2+qx+r=0$$

$$x^3+p'x^2+q'x+r'=0$$

ガ共通ナル二根ヲ有スルコトハ。二式

$$x^3+px^2+qx+r$$

$$x^3+p'x^2+q'x+r'$$

ガ二次ノ通因數ヲ有スルコトナリ。而シテ

$$P = x^2 + px^2 + qx + r$$

$$Q = x^2 + p'x^2 + q'x + r'$$

トシ此通因數ヲ F トスレバ。F ハ

$$\begin{aligned} P - Q &= (p - p')x^2 + (q - q')x + r - r' \\ &= (p - p') \left\{ x^2 + \frac{q - q'}{p - p'}x + \frac{r - r'}{p - p'} \right\} \end{aligned}$$

ノ因數ナルベシ。

$$\therefore F = x^2 + \frac{q - q'}{p - p'}x + \frac{r - r'}{p - p'} \quad \dots \quad (i)$$

又 F ハ

$$\begin{aligned} r'P - rQ &= r'x^2 + p'r'x^2 + q'r'x + rr' - (rx^2 + p'rx^2 + q'rx + rr') \\ &= (r' - r)x^2 + (p'r' - p'r)x^2 + (q'r' - q'r)x \\ &= (r' - r)x \left\{ x^2 + \frac{p'r' - p'r}{r' - r}x + \frac{q'r' - q'r}{r' - r} \right\} \end{aligned}$$

ノ因數ナルベク。x ハ P 及ビ Q ノ因數ナラザル
コト明ラカナルヲ以ツテ。

$$F = x^2 + \frac{p'r - p'r'}{r - r'}x + \frac{q'r - q'r'}{r - r'} \quad \dots \quad (ii)$$

ナルコトヲ知リ得ベシ。故ニ (i), (ii) ノ相當項ノ
係數ヲ比較シテ次ノ關係ヲ得ベシ。

$$\left. \begin{aligned} \frac{q - q'}{p - p'} &= \frac{p'r - p'r'}{r - r'} \\ \frac{r - r'}{p - p'} &= \frac{q'r - q'r'}{r - r'} \end{aligned} \right\}$$

即チ

$$\left. \begin{aligned} (q - q')(r - r') &= (p - p')(p'r - p'r') \\ (r - r')^2 &= (p - p')(q'r - q'r') \end{aligned} \right\}$$

系 ニツノ一元三次方程式

$$\left. \begin{aligned} ax^3 + bx^2 + cx + d &= 0 \\ a'x^3 + b'x^2 + c'x + d' &= 0 \end{aligned} \right\}$$

ガ共通ナル二根ヲ有スルトキハ。

$$\left. \begin{aligned} (a'e - ac')(a'd - ad') &= (a'b - ab')(b'd - b'd) \\ (a'd - ad')^2 &= (a'b - ab')(c'd - cd') \end{aligned} \right\}$$

ナル關係アリ。

(證) 此等ノ方程式ヲ化シテ。夫々。

$$x^3 + \frac{b}{a}x^2 + \frac{c}{a}x + \frac{d}{a} = 0$$

$$x^3 + \frac{b'}{a'}x^2 + \frac{c'}{a'}x + \frac{d'}{a'} = 0$$

故ニ本定理ノ關係ニ。

$$p = \frac{b}{a}, \quad q = \frac{c}{a}, \quad r = \frac{d}{a}$$

$$p' = \frac{b'}{a'}, \quad q' = \frac{c'}{a'}, \quad r' = \frac{d'}{a'}$$

ト置ケバ。

$$\left. \begin{aligned} \left(\frac{c}{a} - \frac{c'}{a'}\right)\left(\frac{d}{a} - \frac{d'}{a'}\right) &= \left(\frac{b}{a} - \frac{b'}{a'}\right)\left(\frac{b'}{a'} \times \frac{d}{a} - \frac{b}{a} \times \frac{d'}{a'}\right) \\ \left(\frac{d}{a} - \frac{d'}{a'}\right)^2 &= \left(\frac{b}{a} - \frac{b'}{a'}\right)\left(\frac{c'}{a'} \times \frac{d}{a} - \frac{c}{a} \times \frac{d'}{a'}\right) \end{aligned} \right\}$$

即チ

$$\left. \begin{aligned} (a'c - ac')(a'd - ad') &= (a'b - ab')(b'd - bd') \\ (a'd - ad')^2 &= (a'b - ab')(c'd - cd') \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。

例 ニツノ方程式

$$px^3 + qx^2 + rx + s = 0$$

$$sx^3 + rx^2 + qx + p = 0$$

ガ共通ナル二根ヲ有スルトキハ。

$$p^2 - s^2 = pr - qs$$

ナルコトヲ證明セヨ。但シ $pq \neq rs$ トス。

[解] 本系ノ關係ニ

$$a = p, \quad b = q, \quad c = r, \quad d = s$$

$$a' = s, \quad b' = r, \quad c' = q, \quad d' = p$$

ト置ケバ。

$$(sr - pq)(s^2 - p^2) = (sq - pr)(rs - qp) \quad \dots (i)$$

$$(s^2 - p^2)^2 = (sq - pr)(qs - pr) \quad \dots (ii)$$

ヲ得ベシ。然ルニ

$$pq \neq rs \quad pq - rs \neq 0$$

故ニ。(i) ヨリ

$$s^2 - p^2 = qs - pr$$

$$\therefore p^2 - s^2 = pr - qs$$

ヲ得ベシ。而シテ此關係ハ (ii) ヲモ成立セシムルコト明ラカナリ。

[定理] (III) ニツノ一元三次方程式

$$ax^3 + bx^2 + cx + d = 0$$

$$a'x^3 + b'x^2 + c'x + d' = 0$$

ガ共通ナル三根ヲ有スルトキハ。

$$\frac{a}{a'} = \frac{b}{b'} = \frac{c}{c'} = \frac{d}{d'}$$

ナル關係アリ。

(證) 此等ノ方程式ヲ化シテ。

$$x^3 + \frac{b}{a}x^2 + \frac{c}{a}x + \frac{d}{a} = 0$$

$$x^3 + \frac{b'}{a'}x^2 + \frac{c'}{a'}x + \frac{d'}{a'} = 0$$

而シテ共通ナル三根ヲ有スルコトハ。二方程式
ガ全一ナル方程式ノコトナリ。故ニ相當項ノ係
數ヲ比較シテ

$$\left. \begin{aligned} \frac{b}{a} = \frac{b'}{a'} \\ \frac{c}{a} = \frac{c'}{a'} \\ \frac{d}{a} = \frac{d'}{a'} \end{aligned} \right\} \text{即チ} \left. \begin{aligned} \frac{a}{a'} = \frac{b}{b'} \\ \frac{a}{a'} = \frac{c}{c'} \\ \frac{a}{a'} = \frac{d}{d'} \end{aligned} \right\}$$

ヲ得ベシ。故ニ

$$\frac{a}{a'} = \frac{b}{b'} = \frac{c}{c'} = \frac{d}{d'}$$

ナリ。

【 終 】

發行所

(東京市日本橋區)

博

文 館

振替貯金口座東京二四〇番
販賣部用電話本局三六三〇番

奥付

印刷所

株式秀英舎第一工場
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷者

飯田三千太郎
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

著作權所有

高等算術方程式論

發行者

大橋新太郎
東京市日本橋區本町三丁目八番地

著者

松村定次郎

明治四十三年八月八日發行
明治四十三年八月五日印刷

定價金八拾錢

君著述數學書類

●立體幾何學 難問解義 紙數三百二十二頁 郵税金五拾五錢
全一冊四六判

●平面幾何學難問解義 紙數二百四十六頁 郵税金七拾五錢
全一冊四六判

●代數學難問解義 紙數四百三十二頁 郵税金八拾錢
全一冊四六判

●算術難問解義 紙數百九十頁 郵税金六拾錢
全一冊四六判

—(博文館發行)—

に達せんことを務めたり

し理論としては圓函數の解析的定義となり轉々して函數の微分方程式定義れざらん事を勉め應用としては進んで高等諸學科に必用なる諸公式を誘導應用として列記せるも必要なる公式の誘導に止め成るべく理論の本道を離本書は歴史的に在來の三角法より筆を起し平面、球面三角法の如きは其一

新撰三角法

郵税金各八錢
特製正價金五拾五錢
並製正價金四拾錢
全一冊菊判紙數三百八十頁

理學士 松村定次郎

新撰解析幾何學

郵税金各八錢
特製正價金五拾五錢
並製正價金四拾錢
全一冊菊判美本紙數三百頁

るものにして實に近來稀有の良書なり
煩を省き其要を抜き微積分學の眞髓を摘萃して能く短時日に其大意を了解せしむる様著述せられた
書は理科大學にありて數學專攻の士松村理學士の歐米に於ける嶄新なる諸大家の說を基礎として其
深遠なる應用の弘大なる能く初學者をして會得せしむるの良書なきは豈に我學界の遺憾ならずや本
たる光を放たしむるに至り解析幾何學力學と並び近世の三大進歩の一と稱せらる然れども其理論の
微積分學は數學物理學の泰斗として有名なる英人ニットンの發明に係り爾來諸大家の研究は燦然

新撰微分積分學

郵税金各八錢
特製正價金五拾五錢
並製正價金四拾錢
全一冊菊判美本三百十四頁

なる海に類書中の一頭地を抜くもの實に數學家の要書也。
 數、對稱式論、テデルミナント、二次式論及び三次及四次方程式解方に擧げず立論證明の精緻確實
 人、對稱式論、テデルミナント、二次式論及び三次及四次方程式解方に擧げず立論證明の精緻確實
 代數の觀念並に四則算法を支配する根原的法則を叙して讀者の記憶を新にし以て新研究の地を成さ
 整數の觀念並に四則算法を支配する根原的法則を叙して讀者の記憶を新にし以て新研究の地を成さ
 代數學に於ける研究の主眼たる數の値に關係する者にあらずして寧ろ數の算法に在りとす、本書は

新撰代數學

大學教授 理學博士 高木貞治君著

郵稅各金八錢
 特製正價金五拾五錢
 並製正價金四拾錢
 全一冊菊判美本紙數百頁

するの士は一本を備へざるべからず
 三公理を否認せる非ユークリッド幾何學に入り説述殆んど微を極む蓋し幾何學の新智識を得んと欲
 は先づ筆をユークリッドが幾何學に起して、以て其狀貌を知らしめたる後更にユークリッドが第十
 ユークリッド幾何學を説きたる者あらざりしは、識者の夙に遺憾としたる所なりき、是を以て本書
 從來我國に於ける幾何學の著譯饒多なりと雖も悉く昔ユークリッドが作れるものに從ひ未だ二の非

新撰幾何學

大學教授 理學士 林鶴一君著

郵稅各金八錢
 特製正價金五拾五錢
 並製正價金四拾錢
 全一冊菊判美本紙數三百頁

發兌元 東京本町 博文館

第二編……二次曲線論

▲第七章……一次圖形の數量的性質	▲第十五章……二次圖形の問題 (虛原素)
▲第八章……一次圖形の射影的性質	▲第十六章……二次曲線の焦點
▲第九章……調和圖形	▲第十七章……對合の數量的性質
▲第十章……相對の原理	▲第十八章……對合
▲第十一章……幾何學原形	▲第十九章……二次曲線の徑及軸
▲第十二章……射影法及截斷法	▲第二十章……極點及接線
▲第十三章……緒論	▲第二十一章……定理の推論
▲第十四章……總論	▲第二十二章……パスカル及ブリアンション
▲第二編……總論	▲第二十三章……二次曲線及束線

近世幾何學

理學士 藤田外次郎君著

郵稅各金八錢
 特製正價金五拾五錢
 並製正價金四拾錢
 全一冊菊判美本三百廿四頁

之を江湖に薦む。
 一、斯道近來の好著之に遊ぶもの、一讀を缺くべからざるものなり、即ち
 一、讀直ちに幾何學の定理を知るを得ると共に、また其運用に熟するを得べ
 を詳論したるものにして、且つ各章、附するに適當の例を以てしたれば、
 本、幾何學原形及相對の定理に論究し、二次曲線論に遷り、其曲線の性質
 本書は斯學に造詣深き藤田理學士の著述に係り中心射影法より説き起し

發兌元 東京本町 博文館

上卷 算術代數の部 下卷 幾何學の部

定受驗用 文部省檢 新撰數學講義

理學士 藤田外次郎君著

郵稅一冊金六錢
正價金卅八錢
全二冊四六列五百七十八頁

を了會するを得、數の性質は其冊子の内に説き悉されて餘蘊なし。
の説明立論精緻確實而も文章は平易流暢一讀の下にアリスメチックの原理
羈根、無理數量及其測定に説き及ぼし結論として負數虛數に筆を擱く其間
ものは單に機械的に數を説明するに過ぎず本書は筆を整數に起して分數、
世に算術の書夥多ありと雖ども其多くは西洋算術書の翻譯に終り然らざる

新撰算術

大學教授 理學博士 高木貞治君著

郵稅各金八錢
特製正價金五拾五錢
並製正價金四拾錢
全一冊菊列紙數三百六十頁

發兌元 東京本町 博文館

に得難き良書と云ふべし。

其説明は通俗平易を旨としたれば眞
題の解釋は最も嶄新なる方法に依り
り、其中最も重なる例題を撰み、間
漸次其真義に達せしむるの方針を採
先づ算術の最も卑近なる者より初め
れ、漸く本書の上梓を見るに至る、
なりとす、高木博士此事に留意せら
教授上完全なる良書なきは遺憾の事
て數學の書夥多ありと雖自修上將た
に江湖の熟知せらるゝ所なり、而し
高木博士の數學に精通せらるゝは夙

概要項目

第十一	附錄	學用語對譯
第十章	算及對數	極限及連續的算法
第九章	無理數	量の連續性及無理數の起源
第八章	四則算法の形式上分易	分數に關する整數論的研究
第七章	分數	分數に關する整數の性質
第六章	整除に關する整數の性質	整除に關する整數の性質
第五章	負數四則算法の再審	負數四則算法の再審
第四章	四則算法	四則算法
第三章	自然數の起原	自然數の起原
第二章		
第一章		

博文館發行

新式算術講義

大學教授 理學博士 高木貞治君著

正價金壹圓 小包料金拾貳錢
頗美本紙數四百七十頁
全一冊菊列特製金文字入

38-385

出野淺治君解
竹貫斐文君著

●算術問題解法指南

紙數五百廿頁
全二册四六列

小包料金八錢
正價五拾八錢

三田暉信君著

●實用數學一萬題

紙數五百十頁
全一册四六列

郵税金八錢
正價金四拾錢

鑑別して本書の眞價を知れ。

ん。故に學生に取りては便利至極の書也。世間類似のもの多し、乞ふ嚴に
を附したるにあり、第三解義の懇切なるにあり、其他數へ來れば多々あら
解なり、本書の特色は第一順序を正したるにあり、第二種類毎に模範問題
本書は題名の如く最近十ヶ年間各官立學校入學試験に於ける算術問題の詳

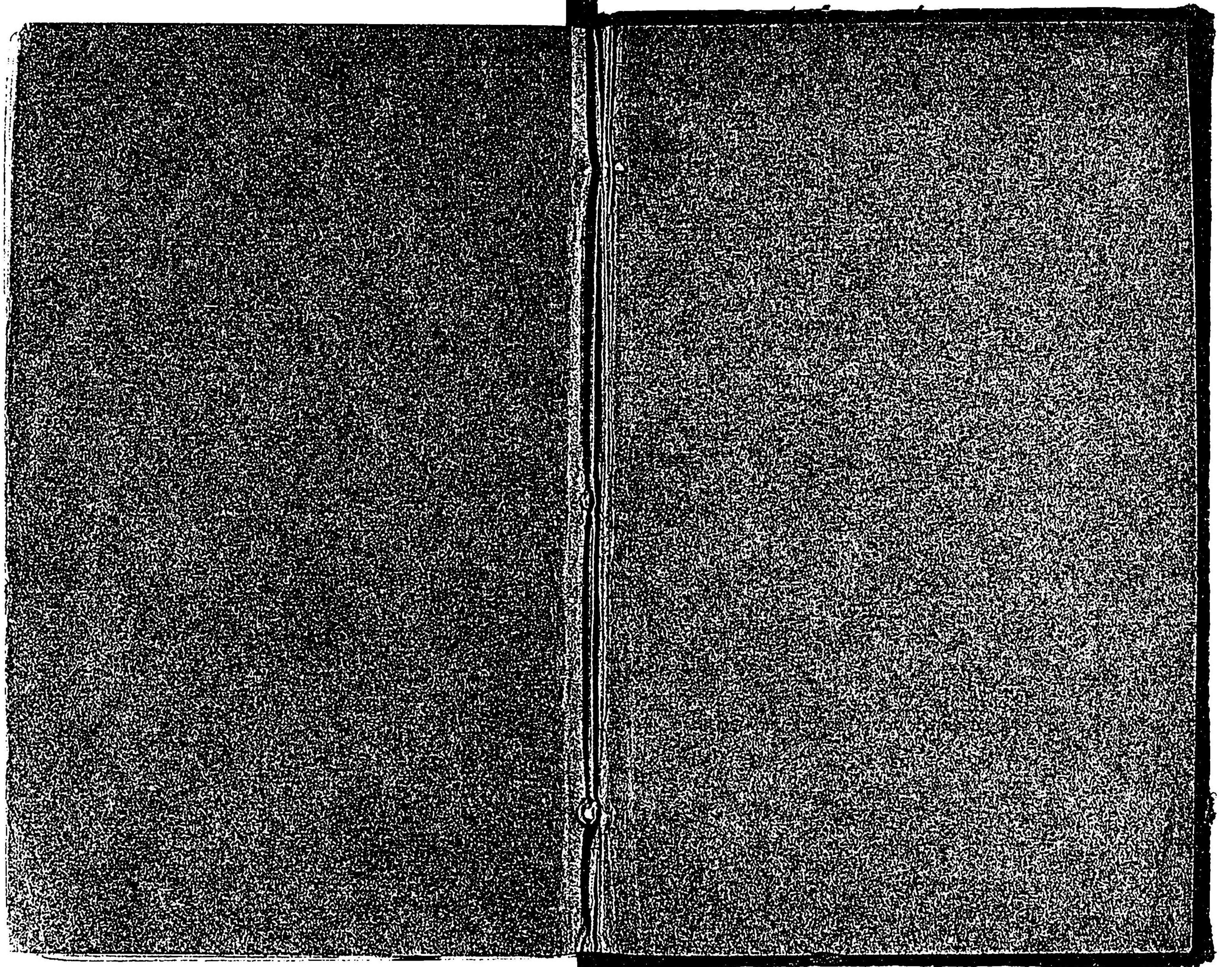
十年間官立學校入學試験算術問題詳解

郵税金六錢
正價金六拾錢
全一册三四六列上製

數學世界主作
攻玉社中學校教諭
日本中學校教諭

竹貫登代多君著

博文館 東京本町 元兌發



316
3165

M

054326-000-4

38-385

方程式論

松村 定次郎/著

M43

CAD-0455



38
389